

## 第55回 神戸市文化財保護審議会次第

日時 令和5年8月29日（火）14:30～

場所 市役所1号館14階 AV1会議室

### 1 開 会

### 2 会長・副会長の選出

### 3 議 事

(1) 伝建部会委員の指名

(2) 「指定文化財の指定」の諮問の件

(3) 報告事項

① 伝統的建造物群保存地区の保存と活用

② 神戸市文化財保存活用地域計画

③ 神戸歴史遺産の認定等

④ 国登録有形文化財（建造物）の滅失

⑤ 事業概要（令和4年度報告・令和5年度計画）

### 3 閉 会

## 神戸市文化財保護審議会委員名簿

※委員任期 令和5年7月15日から令和7年7月14日（任期2年）

	担当部門	氏名	役職等、( )内は専門分野
1	建築	黒田 龍二	神戸大学名誉教授 (建築史)
2	建築	橋寺 知子	関西大学環境都市工学部准教授 (近代建築)
3	建築	大林 潤	奈良文化財研究所 建造物研究室長 (建築史)
4	建築	三輪 康一	神戸大学名誉教授 (伝統的建造物・都市景観)
5	美術工芸品	筒井 忠仁	京都大学大学院文学研究科准教授 (絵画史)
6	美術工芸品	岩田 茂樹	東大寺上席研究員 (彫刻史)
7	民俗	大江 篤	園田学園女子大学学長 (民俗学)
8	歴史	市澤 哲	神戸大学大学院人文学研究科教授 (中世史)
9	歴史	藪田 貫	兵庫県立歴史博物館館長 (近世史)
10	歴史	黒崎 直	大阪府立弥生文化博物館名誉館長 (考古学)
11	歴史	菱田 哲郎	京都府立大学文学部教授 (考古学)
12	記念物	林 まゆみ	兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科客員教授 (庭園史)
13	記念物	石丸 京子	県立尼崎の森中央緑地 生物多様性 チーフコーディネーター (植物学)



令和5年8月29日

神戸市文化財保護審議会 会長 様

神戸市長 久元 喜造

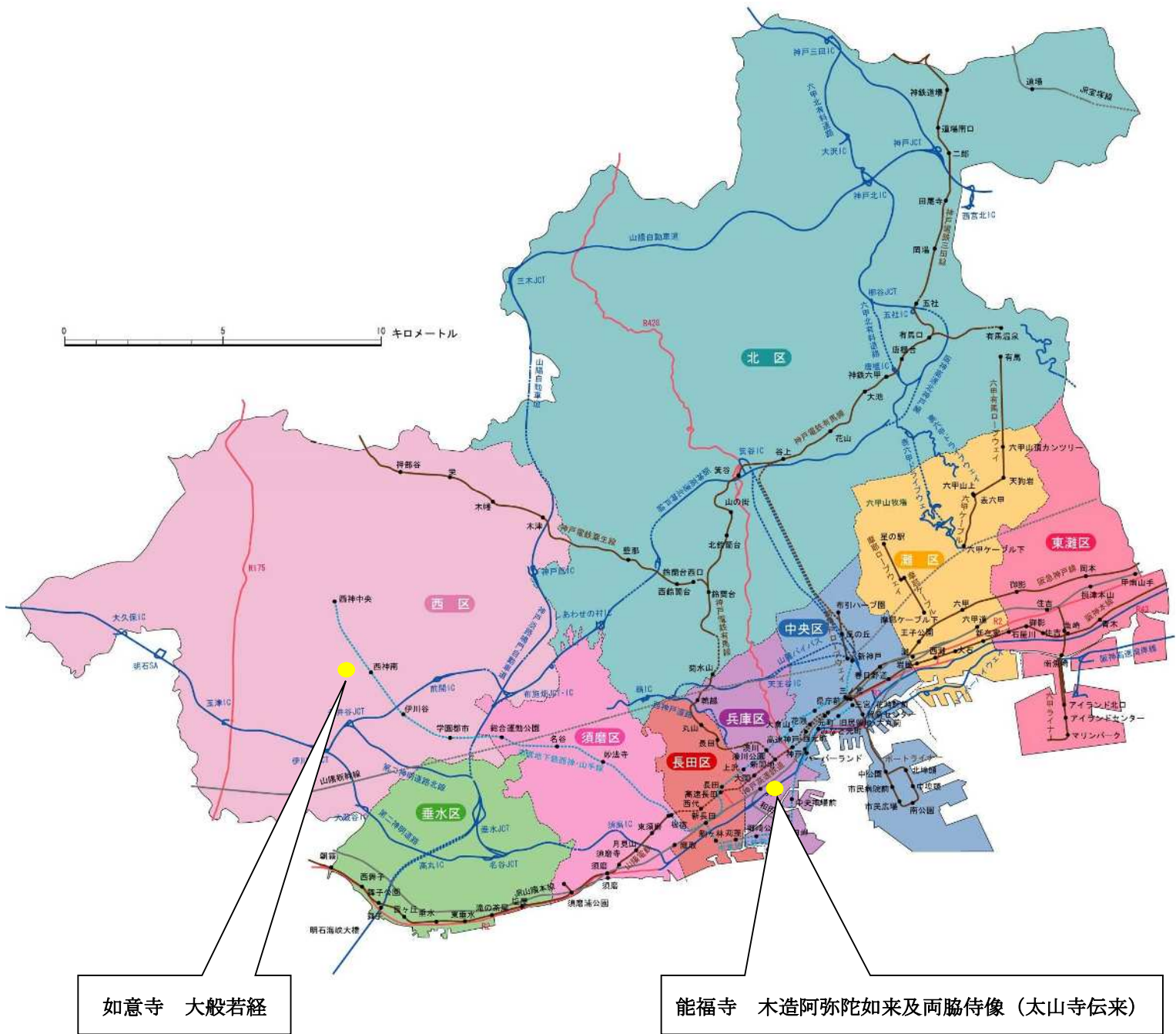
諮 問

神戸市文化財の保護及び文化財等を取り巻く文化環境の保全に関する条例（平成9年3月31日条例第50号）の規定による神戸市指定有形文化財の指定（第6条第1項）について別紙の候補物件を同条例第67条の規定により諮問します。

## 令和5年度神戸市指定文化財諮問物件一覧

種 類		名 称		数 量	所 在 地		
		所有者（管理者）			概 要		
指 定	有 形 文 化 財	彫 刻	木造阿弥陀如来及両脇侍像 (太山寺伝来)		3 軀	兵庫区北逆瀬川町1番39号	
			宗教法人 能福寺			(年代) 平安時代後期 (12世紀半ば)	
		書 跡 ・ 古 文 書	大般若経		600 帖	西区櫛谷町谷口259	
			宗教法人 如意寺			(年代) 平安時代後期～江戸時代	

# 令和5年度 神戸市指定文化財諮問予定物件位置図



指 定 等 件 数 一 覧

種		類	令和4年度 までの累計	今 回 諮問件数	合 計
指 定	有形文化財	建 造 物	25	—	25
		絵 画	11	—	11
		彫 刻	23	1	(24)
		工 芸 品	7	—	7
		書 跡・古 文 書	5	1	(6)
		歴 史 資 料	1	—	1
		考 古 資 料	15	—	15
		石 造 物	15	—	15
	民俗文化財	有 形 民 俗	1	—	1
		無 形 民 俗	1	—	1
	史跡名勝天然記念物	史 跡	8	—	8
		名 勝	6	—	6
		天 然 記 念 物	7	—	7
小 計			125	2	(127)
登 録	有 形 文 化 財	建 造 物	19	—	19
	民 俗 文 化 財	無 形 民 俗	24	—	24
小 計			43	—	43
認 定	地 域 文 化 財	無 形 民 俗	4	—	4
		史 跡	11	—	11
小 計			15	—	15
指 定	文 化 環 境 保 存 区 域		9	—	9
選 定	歴 史 的 建 造 物		47	—	47
合 計			239	2	(241)

		東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区	
有形文化財	建造物	指定 25 H20旧乾家住宅（H21追加指定）、H29塩野家住宅	H27六甲八幡神社本殿			H9塩田八幡宮本殿・八幡神社本殿・舞台（六條八幡）・八多神社本殿、H10淡河八幡神社本殿（附）、H14谷家住宅・前田家住宅・永福家住宅・百済家住宅、H15大前家住宅、H21洲上家住宅、H30箱木家住宅土蔵、R2番匠家住宅・大前家住宅、R3素盞鳴尊神社本殿			H23旧ジェームス家住宅	H9近江寺本堂・住吉神社本殿、H10春日神社本殿・拝殿・幣殿・舞台（平野町）・性海寺八幡神社本殿・性海寺本堂（附）	
		登録 19				H9片山家住宅・大前家住宅・南部家住宅・溝下家住宅、H10乗池家住宅・清内家住宅・赤井家住宅・薬師堂、H11山中家住宅、H12寿福寺庫裏・永徳寺本堂・林家住宅、H13番匠家住宅・畠田家住宅・林家住宅・天満神社本殿覆屋、H16辻尾家住宅、H17平井家住宅、H21大前家住宅、H22岡家住宅				H10田中家住宅（平野町印路）、H11龍象院本堂	
	絵画	指定 11	H16絹本着色弥勒曼荼羅（天上寺）			H10紙本着色丹生山明要寺参詣曼荼羅図・絹本墨画群猫図（丹生宝庫内）、H11絹本着色一万三千仏図（市博寄託）、H15絹本着色釈迦三尊画像（石峯寺）		H12紙本着色平敦盛画像（福祥寺）、H13絹本着色月庵宗光禪師頂相（禪昌寺）、H22絹本着色天台四祖像（福祥寺）、H24絹本着色両界曼荼羅（妙法寺）、R4禪昌寺旧方丈障壁画（禪昌寺）		H14絹本着色如意輪観音画像（性海寺）	
	彫刻	指定 23			H13木造十一面観世音菩薩立像（薬仙寺） R5木造阿弥陀如来及両脇侍像（太山寺伝来）（能福寺）	H9木造阿弥陀如来立像・木造聖観音立像（寿福寺）、H10薬師如来坐像（道場・平田薬師堂）、H16木造毘沙門天立像（温泉寺）、H21木造薬師如来坐像（石峯寺）	H11木造阿弥陀三尊像（海泉寺）、H12木造板五輪卒塔婆（常福寺）	H15転法輪寺木彫群（転法輪寺）、H27転法輪寺・木造四天王立像		H9木造金剛力士像（薬師寺）、H10木造阿弥陀如来立像（枝吉・常葉寺）、H14木造阿弥陀如来坐像（如意寺）、H18木造不動明王立像（太山寺）、H20木造獅子・狛犬（太山寺）、木造伝三所権現坐像（太山寺）、H24木造四天王立像（太山寺）、R3木造十一面観音菩薩坐像（如意寺）	
	工芸品	指定 7		H20蒔絵桜花南蛮人文絵鞍（市立博物館）、H25金銅板製経箱（市立博物館）					H14銅製鍍金釣燈籠（福祥寺）、H14銅製鍍金釣燈籠（妙法寺）、H28九条袈裟伝月庵宗光所用（禪昌寺）		H15銅製鍍金宝珠鈴（太山寺）・青磁（太山寺）
	書跡・古文書	指定 5		H14太山寺文書（市博寄託）、H15紺紙金字大吉祥陀羅尼経仏説宝賢陀羅尼経（太山寺）、H25和田岬・湊川砲台関係史料（市立博物館）	H17岡方文書（文書館寄託）						H15性海寺文書（性海寺） R5大般若経（如意寺）
	歴史資料	指定 1		28 神戸外国人居留地計画図（市立博物館・市立中央図書館）							
	考古資料	指定 15									H9狩口台きつね塚古墳出土品（埋文C）、H10滝の奥経塚出土品（埋文C）、H13本山遺跡出土弥生時代前期木製品等（埋文C）、新方遺跡（野手・西方地点）出土人骨（埋文C）、H19銅鐸鑄型未製品（埋文C）、H20白水瓢塚古墳出土遺物（埋文C）、塩田北山東古墳出土品（埋文C）、H21史跡五色塚古墳・小壺古墳出土品（埋文C）（R2追加指定）、H24北青木遺跡出土銅鐸（埋文C）、H24本山遺跡出土銅鐸（埋文C）、H26深江北町遺跡出土木簡・墨書土器（埋文C）（H30追加指定）、H27上沢遺跡出土佐波理鏡（埋文C）、H28白水遺跡梵鐘鑄造遺構出土品（埋文C）、R1祇園遺跡出土玳瑁靴小椀（埋文C）、R2高津橋大塚古墳出土品（埋文C）
	石造物	指定 15	H16平野備前守忠勝参り墓石室（中勝寺）			H14題目板碑（久遠寺）	H11宝篋印塔（通称：畑ノ辻塔）（山田町原野）、H12温泉寺 石造五輪塔（有馬町）、H14宝篋印塔（清光寺/山田町中）、H15宝篋印塔（切畑墓園）五輪塔（柳谷墓園）、H16石灯笼（大蔵神社）・石灯笼（杉尾神社）・石灯笼（八阪神社）、H18宝篋印塔（小部峠）		H9敦盛塚石造五輪塔、H10有馬家墓所地藏石仏（大手町）、H17笠塔婆（北向八幡神社）	H13しぼり地藏石仏（平野町慶明）	
	有形民俗	指定 1					H18弁才船絵馬（敏馬神社）				
芸能 工芸技術											
無形民俗文化財	無形民俗	指定 1								R2性海寺の追儺式	
		登録 24	H9弓弦羽神社のだんじり H10保久良神社のだんじり、本住吉神社のだんじり	H9河内国魂神社の猿彦彦、H12船寺神社の獅子舞	H9兵庫木遣音頭、H10和田神社のだんじり	H9熊野神社の獅子舞・南僧尾神楽獅子、六條八幡神社の流鏝馬神事・無動寺のオコナイ、原野六斎太鼓念佛・淡河八幡神社の御旅神事、H18雀のお頭（太福寺）		H9勝福寺の追儺式、妙法寺の追儺式、多井畑カネタタキ	H9転法輪寺の追儺式、H11明王寺の追儺式	H9神出町、三坂神社・大蔵神社・嶋姫神社の獅子舞・近江寺の修正会、伊川谷惣社の獅子舞、H10前開八幡神社のシュウシ、H11性海寺の追儺式	
		認定 4			H9水陸普度勝会（関帝廟の孟蘭盆）、南京町春節祭	H17有馬入初式（有馬町）	H9長田マダン				
史跡・名勝・天然記念物	史跡	指定 8			H19再度山大龍寺磨崖梵字岩	H9伝豊太閤湯山御殿跡、H10丹生山・明要寺参道町石群			H9狩口台きつね塚古墳、H23大蔵山遺跡	H9太山寺磨崖不動明王、H10木津の六地藏磨崖仏（押部谷町）、H20端谷城跡（楯谷町）	
	名勝	認定 11	H9沢の井		H11塞神の碑及び塞神の松跡の碑（上祇園町）	H15栗花落の井（山田町原野）	H10腕塚（平忠度塚）（駒ケ林）、H12菅公の梅旧跡、H14平忠度冢（野田町）、H16監物太郎頼賢の碑、H21平盛塚の碑	H10松風村雨堂（離宮前町）、H13那須與一墓所（妙法寺円満林）		H9野中の清水	
	天然記念物	指定 6	H24旧乾家住宅庭園			H9十輪院庭園、H10竹林寺庭園（淡河町神影）		H17西尾邸庭園（離宮西町）		H9歎喜院庭園（H15門・土塀追加指定）、H11福聚院庭園（楯谷町谷口）	
		指定 7	H10鷺の森のケヤキ（森北町）、H14弓弦羽神社のムクノキ	H15妙善寺のソテツ	H11大龍寺寺叢及び周辺のスタジイ群落	H10素盞鳴尊神社の社叢（大沢町）・有間神社の社叢（有野町）	H10長田神社のクスノキ	H10白川の石抱きカヤ			
文環区域	保存区域	指定 9	白鶴美術館	徳光院		石峯寺、無動寺、八幡神社		福祥寺		太山寺、如意寺、H10性海寺	
		選定 47		【歴史的建造物】本堂、開山堂、鐘楼、弁天堂、山門		【歴史的建造物】〔石峯寺本堂、鐘楼、鼓楼、仁王門、十輪院（土塀門）、竹林寺（土塀門）、H12竹林寺本堂（淡河町神影） 〔無動寺〕/本堂、鐘楼、庫裡 〔八幡神社〕拝殿、神饌所		【歴史的建造物】本堂、護摩堂、大師堂、鐘楼、書院、仁王門		【歴史的建造物】〔太山寺〕観音堂、羅漢堂、釈迦堂、経蔵、護摩堂、阿弥陀堂 〔如意寺〕仁王門、福聚院/本堂、文殊堂、庫裡、表門 〔性海寺〕土蔵、鐘楼、手水舎、仁王門 〔福智院〕薬師門、庫裏、土蔵、納屋 〔龍華院〕門、土塀、庫裏、土蔵、井戸	

指定有形文化財

彫 刻

もくぞう あ み だ によらいおよびりょうきょう じ ぞう たいさん じ でんらい 3 軀  
木造阿弥陀如来及 両脇侍像 (太山寺伝来)

所在地 兵庫区北逆瀬川町1番39号  
所有者 宗教法人 能福寺  
制作年代 平安時代後期 (12世紀半ば)

[法 量] 単位cm

	中 尊	左脇侍	右脇侍
像 高	86.4 二尺八寸五分	113.4 三尺七寸四分	113.1 三尺七寸三分
髮際高	74.5 二尺四寸六分	104.4 三尺四寸五分	103.8 三尺四寸三分
頂一顎	28.5	20.9	21.3
面 長	16.5	11.1	11.2
面 幅	16.1	11.0	11.4
面 奥	20.4	12.8	12.7
耳 張	20.3	12.8	13.1
胸奥 (左)	19.3	13.1	13.3
胸奥 (右)	19.0	13.3	13.7
腹 奥	25.3 (衣含む)	16.2	15.2
肘 張	54.2	36.9	36.0
膝 張	67.9	—	—
膝高 (左)	13.7	—	—
膝高 (右)	13.3	—	—
坐 奥	45.3	—	—
裾 張	—	25.7	26.1
足先開 (外)	—	19.2	18.7
台座高	117.0	73.0	73.0
框 幅	128.4	77.0	76.9
框奥行	103.4	61.5	62.0



## [形 状]

### 【中 尊】

螺髻<sup>らほつ</sup>を粒状に表す。螺髻は正面髮際第1列で42粒、地髮<sup>じはつ</sup>6段、肉髻<sup>につけい</sup>11段を数える。肉髻<sup>につけい</sup>珠<sup>しゅ</sup>、白毫<sup>びやくごう</sup>を表す。耳朶は紐状で貫通する。顎の括りを一条表し、三道<sup>さんどう</sup>を表す。胸の括りを左右各一条、腹の括りを一条表す。大衣<sup>だいえ</sup>を偏袒<sup>へんたん</sup>右肩<sup>うけん</sup>に着け、右肩に少し懸ける。大衣の縁を腹部から左肩にかけて一枚折り返し、左肩背面で末端を畳みつつ、左腰脇で台座上に少したわませつつ被せる。裙を着ける。腹前にて両手の第3～5指を組み合わせ、第2指を立て、第1指先を乗せる（阿弥陀如来の定印<sup>じょういん</sup>ないし妙觀察智印<sup>みょうくわんさつちいん</sup>）。右足を外にして蓮華座上<sup>けつ</sup>に結跏趺坐<sup>かふざ</sup>する。両足踵には衣が被さる。

### 【左脇侍】

螺髻<sup>らけい</sup>を結う。螺髻の上部と基部に各1本の結い紐を表す。螺髻前方の地髮部<sup>けぶつ</sup>に化仏立像を表す。地髮<sup>てんかんだい</sup>は天冠台下の正面のみ髪束ね目を表し、その他は平彫りとする。天冠台は紐二条の上に列弁<sup>れつべん</sup>を表す。白毫を表す。両耳前に鬢髮<sup>びんぱつ</sup>が各一条垂下する。耳朶は紐状で貫通する。顎の括りを一条表し、三道を表す。胸の括りを左右各一条、腹の括りを正面に一条、さらに両脇腹に各一条表す。小さく臍<sup>へそ</sup>を表す。左肩から条帛<sup>じょうはく</sup>を懸け、正面で末端を外回しに絡めて垂下させる。背面にも末端の先端を表す。両肩から天衣<sup>てんね</sup>を懸ける。左肩から前に垂れる部分は両膝辺をU字形に渡り、右手首のやや上に懸かって側方に垂下する。右肩から前に垂れる部分は両大腿部の上をやはりU字形に渡り、左前膊（肘のやや前）に懸かって側方に垂下する。裙を着け、正面中央で左を外にして合わせる。裙は腰回りに折返しを表し、正面中央では舌状を示す。腰布を着ける。左腕は前方に屈臂<sup>くつび</sup>し、掌を内側に向け、第1・3・4指をやや強く、第2・5指をゆるく曲げ、持物の未敷蓮華の茎を執る。右腕は垂下し、掌を前に向け、全指を伸ばす。頭部をわずかに右に曲げ、腰を左に捻り、右足先をやや開いて蓮華座に立つ。

### 【右脇侍】

左脇侍像との相違点のみ記す。

螺髻前方の地髮部<sup>すいびょう</sup>に水瓶<sup>すいびょう</sup>を表す。条帛の末端は正面で内回しに絡めて垂下させており、背面では末端を表さない。天衣のかたちは左脇侍のそれを左右逆転させる。両腕のかまえも左脇侍像のそれを左右逆転させる。頭部は傾けない。腰を右に捻り、左足先をやや開いて蓮華座に立つ。

## [品質構造]

### 【中 尊】

肉身の金泥塗りと着衣の漆箔が分厚くかかり、また底板が貼られるため像内をうかがうことができないが、頭部については矧ぎ目が目視でき、また体部については磁石を用いて鉄てつ銚かすがいないし鉄釘の存在を探ることにより、矧ぎ目の場所を探った。以下はその結果を受けての推測を含む見解。

頭部は両耳後を通る線で前後に矧ぐ（寄せ木か割り矧ぎかは不明）。体部の矧ぎ目は不詳だが、襟首中央に鉄が用いられており、割首の可能性が考えられる。右手は肩、手首で矧ぐ（肩の前・後、手首に鉄の反応）。左体側部の矧ぎ目は不詳。両手首先は共木か。頭部、体部ともに内割を施す。像底に底板を貼り、内部を塞ぐ。

### 【左脇侍】

構造の詳細不明ながら、右耳直後に鉄の反応があり、この部位にて前後に矧ぐか。頸部やや左下にも鉄の反応があり、割首するかと思われる。両肩背面にも鉄の反応があり、両肩で矧ぐとみられる。その他は不明。両足裏に造り出した足柄あしほぞにて立つ。

### 【右脇侍】

頭・体を通して、両耳後を通る線で前後に矧ぐか。右腰側面（腰布の中程）に鉄の反応があり、体部の矧ぎ目の位置に該当するか。頸部右下に鉄の反応があり、割首するかと思われる。両肩の正・背面に鉄の反応があり、両肩で矧ぐとみられる。右手首にも鉄の反応があり、手首で矧ぐか。天衣の右腰側方を垂下する部位は中程で上下に矧ぐ。両足先にも鉄の反応があり、足先を矧ぐとみられる。左耳後の矧ぎ目は上方で螺髻にかかると認められるが、髻には矧ぎ目が見えないため、髻は別材製か。左後頭部の地髪部にも鉄反応あるが、補修に関わるものか。

## [保存状態]

### 【中 尊】

肉身の金泥塗り、着衣の漆箔、肉髻珠、白毫、底板、裳先もさき、光背、台座、以上後補。両耳上の螺髻部の矧ぎ目付近に補修の痕跡が認められる。

### 【左脇侍】

肉身の金泥塗り、着衣の漆箔、化仏、白毫、天衣の右手首やや上及び左肘やや前から側方に垂下する遊離部、銅製装身具のすべて、持物じもつ、光背、台座、以上後補。条帛の背面末端垂下部後補か。螺髻、両手首先も後補の可能性がある。

## 【右脇侍】

肉身の金泥塗り、着衣の漆箔、水瓶、天衣の左手首や上から側方に垂下する遊離部、同じく天衣の左前膊内側の遊離部、銅製装身具のすべて、持物、光背、台座、以上後補。螺髻、両手首先も後補の可能性はある。

## 【備考】

月輪影殿（本堂）の本尊として、内陣須弥壇上に安置される。昭和28年（1953）に同堂が移築落成したことを受けて、太山寺（神戸市西区伊川谷町前開224）より勧請された。

## 【説明】

ほぼ実人大の阿弥陀如来像とこれに随侍する観音・勢至菩薩立像である。阿弥陀如来像が定印を結び、両脇侍像がそれぞれ外側の手を上げて持物を執るかまえを示す三尊像は、現存作品では9世紀末頃の京都・仁和寺像を早い例とするが、在銘像では天承元年（1131）の鳥取・大山寺像、永治2年（1142）の滋賀・金體寺像、承安2年（1172）の三重・仏土寺像など、平安時代後期の諸作例が認められる。

能福寺像は阿弥陀如来像に比較的新しい底板が貼られて像内が目視できず、また三軀とも後補の分厚い漆箔・金泥がかけられて、構造ないし技法の詳細を定かにしがたい。しかし作風は一見して洗練された定朝\*様を示すものであり、また三軀ともに前後矧ぎで割首を行うらしいことが磁石を用いた調査によって推測でき、構造・技法のうえでも平安時代後期の作とみなしても矛盾しないといえる。ただし両脇侍像の髻が平安後期に最も普及した垂髻ではなく、平安時代前～中期に多い螺髻である点は若干気にかかるころではある。とはいえ、平安後期にも螺髻の像は皆無ではないし、また能福寺両脇侍像では幹部の前後の矧ぎ目が髻にはかからないので、髻は別材製かと思われ、後補の可能性も視野に入ってくるため、これをもって平安後期の作であることを否定する根拠とはならないと考える。

定朝から出た院・円2派および奈良仏師（のちの慶派）の3系統のなかでは、肉身や衣文のやや硬い質感に特徴のある院派の作風に近いかと思われる。院派の基準的作例のなかでは、大治5年（1130）の京都・法金剛院阿弥陀如来坐像が院覚の作であり、寿永2年（1183）もしくは文治4年（1188）の同・長講堂阿弥陀三尊像が院尊かその周辺の院派仏師の作とみられる。これらと比較するとき、能福寺像は院覚ないし院尊その人の手になるとまではいえないものの、同時期の円派の作（たとえば保延5年（1139）の京都・安楽寿院阿弥陀如来像など）に認めうる丸みを帯びた柔らかなタッチとは明らかに異質である。また奈良仏師の作と目される仁平元年（1151）の奈良・長岳寺阿弥陀三尊像は、玉眼使用による生氣のある面相や写実性を増した衣文表現に、やはり能福寺像との径庭を感じる。作者名や制作年の特

定するのは困難ながら、12世紀半ば前後の院派仏師、すなわち京都を中心に活動した中央の仏師による造像とみるのが穏当であろう。

三軀ともに像の表面が後補の漆箔・金泥に覆われるとはいえ、洗練された作風はなお如実に認められ、作品としての価値を失っていない。院政期の美意識を色濃く示す優品であり、神戸市指定文化財たるにふさわしい。

## 【用語】

定朝（じょうちょう）：平安時代後期に京都を中心とする中央で活動した仏師。天喜元年（1053）に供養された藤原頼通ふじわらのよりみち（てんぎ）ほつがん 発願の寺院、平等院鳳凰堂（京都府宇治市）の本尊阿弥陀如来像の作者であることが「定家朝臣記」の記述によって判明する。定朝の創始した仏像様式を定朝様といい、絵画的で平明なその作風が当時の貴顕に受容され、平安時代後期の2世紀近くの間、仏教彫刻の主流様式として全国に浸透した。弟子である長勢ちようせいの系統が円派を、子とみられる覚助かくじょの系統が院派及び奈良仏師（後の慶派）を形成し、この3派の仏師が京都・奈良をはじめとする中央における造像を独占的に担った。



木造阿弥陀如来及両脇侍像



木造阿弥陀如来坐像（正面）





木造阿弥陀如来坐像（右斜側面）



木造阿弥陀如来坐像（背面）



木造阿弥陀如来坐像（右側面）



木造阿弥陀如来坐像（左側面）



木造阿弥陀如来坐像（面部 正面）



木造阿弥陀如来坐像（像底）





木造観音菩薩立像（正面）



木造觀音菩薩立像（右斜側面）



木造觀音菩薩立像（背面）



木造觀音菩薩立像（右側面）



木造觀音菩薩立像（左側面）



木造観音菩薩立像（面部 正面）



木造観音菩薩立像（像底）



木造勢至菩薩立像（正面）





木造勢至菩薩立像（左斜側面）



木造勢至菩薩立像（背面）



木造勢至菩薩立像（右側面）



木造勢至菩薩立像（左側面）



木造勢至菩薩立像（面部 正面）



木造勢至菩薩立像（像底）



指定有形文化財  
書 跡・古文書

## 大般若経 600 帖

所在地 西区櫛谷町谷口 2 5 9  
所有者 宗教法人 如意寺  
制作年代 平安時代後期～江戸時代  
法量 縦 24.0cm 横 9.5cm (折本装状態)

比金山如意寺は、市内有数の天台宗の古刹であり、3棟の国指定重要文化財建造物をはじめ、多くの文化財を今日まで伝えている。令和2年度には文殊堂に安置されていた平安時代後期の木造十一面観音菩薩坐像が市指定有形文化財に指定されている。当該資料は、その如意寺に伝世した平安時代後期の書写経巻を含む一具の大般若経である。全600巻が揃い、そのすべてが書写経である。書写の時期は、補写などにより異なる時期のものが一卷の中で混在している場合があるが、全600巻の内ほぼ9割が平安時代後期から鎌倉時代初期と考えられる。元は卷子装であったが、天保14年(1843)の頃に如意寺周辺の村々の助縁により、すべて折本装に改装された。10帖単位で千字文一字を宛て紙製の帙で包み、5帙をまとめて木製の箱に納められている。箱の落とし蓋にはその5帙の千字文と箱の番号である十二支の漢字一字を記している。なお、この經典については、神戸市立博物館問屋氏により、全巻に及ぶ詳細な調査が行われ、奥書や料紙幅などから来歴の検討が行われている。

奥書に江戸時代以外の年代の記載があるものは28帖であり、6帖(巻310、332、474、475、479、480)が天養2年(1145)に常隆寺(廃寺：兵庫県美囊郡)で書写されたものである。それらによると、高男寺(廃寺：兵庫県三木市)の僧、聖寂、暹寂が勸進し、僧の賢光、蓮西、女高橋氏や、古代から東播に勢力を有していた船木氏の一族である文屋氏の出身者が結縁している。また巻320の奥書には年紀や常隆寺等の寺名はないが、船木氏の供養のためと記されているので、この巻も常隆寺経と考えられる。なお、この常隆寺経は、現在のところ「美囊」を「三木」と記した最も古い史料であることが指摘されている。(『新三木市史』)その後、萬勝寺(兵庫県小野市)に明徳5年(1394)までに移され、補修が行われたと考えられている。

また、2帖(巻127、128)には、長治2年(1105)9月10日、賢昭が願主になり、応実、舜意が書写を始めた旨の奥書がある。これは中山寺一日頓写大般若経として著名なもので、これまでは兵庫県加東市の上嶋川住吉神社と馬瀬住吉神社に分蔵されて伝わるものが知られていた。

他にも天承元年(1131)に石峯寺(北区)の僧である覚秀が書写したもの(巻151)が含まれ、これは石峯寺が史料上に登場する最も古く確かな記録である。このほかに常隆寺経と中山寺経とは異なる料紙幅を持つ經典が含まれており、これらの事例を踏まえると、上記以外の別の寺院で平安時代後期に書写された経巻の混合も想定できる。

これらの出自を異にする大般若経が如意寺で混合した時期は、問屋氏の調査で、前述の常隆寺



経及び中山寺経の来歴等により、文明元年(1469)から天正3年(1575)の間と推定されている。なお中山寺経が分散するのは、住吉神社の中山寺経に見られる有馬郡槻瀬郷の寺院での修理の痕跡が、如意寺の中山寺経と考えられる経巻には見られないため、有馬郡槻瀬郷に移動する以前と考えられている。

近世においても、天保14年(1843)の改装に引き続いて、嘉永2年(1850)まで塔頭寺院の僧侶や、明石城下の商人などの書写による補巻も行われており、周辺地域の信仰が連綿と受け継がれてきたことを物語っている。

以上のように、本大般若経は市内に類例のごくわずかな平安時代後期の書写経であることに加え、伝来は西摂から東播の寺院ネットワークの広がりを示し、補修の痕跡は地域の人々と大般若経との関係の歴史を物語る貴重な文化財である。以上の理由により、神戸市指定文化財とするにふさわしい。

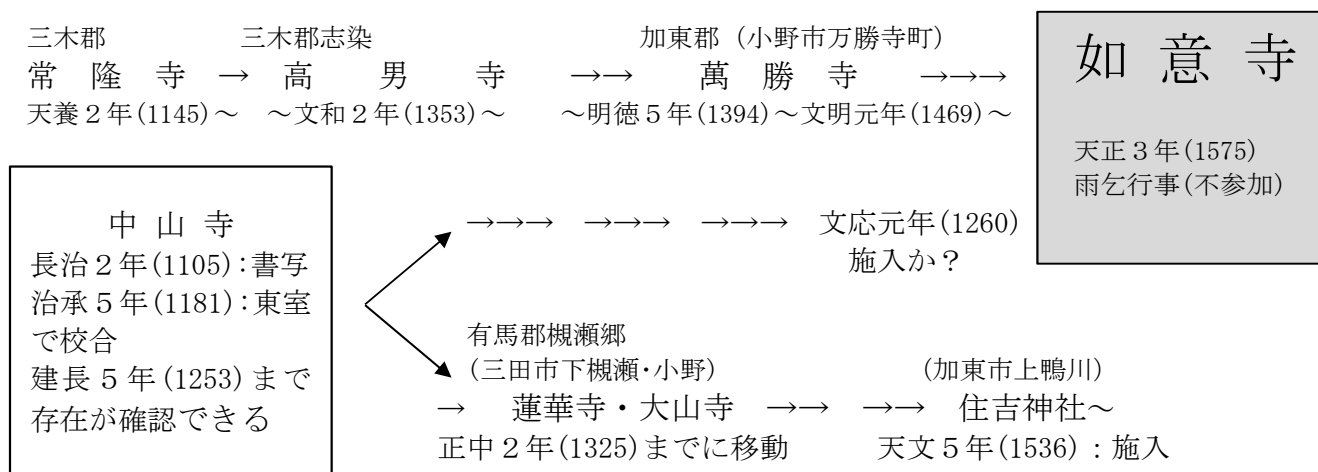


図1 如意寺大般若経における常隆寺経と中山寺経の推定来歴

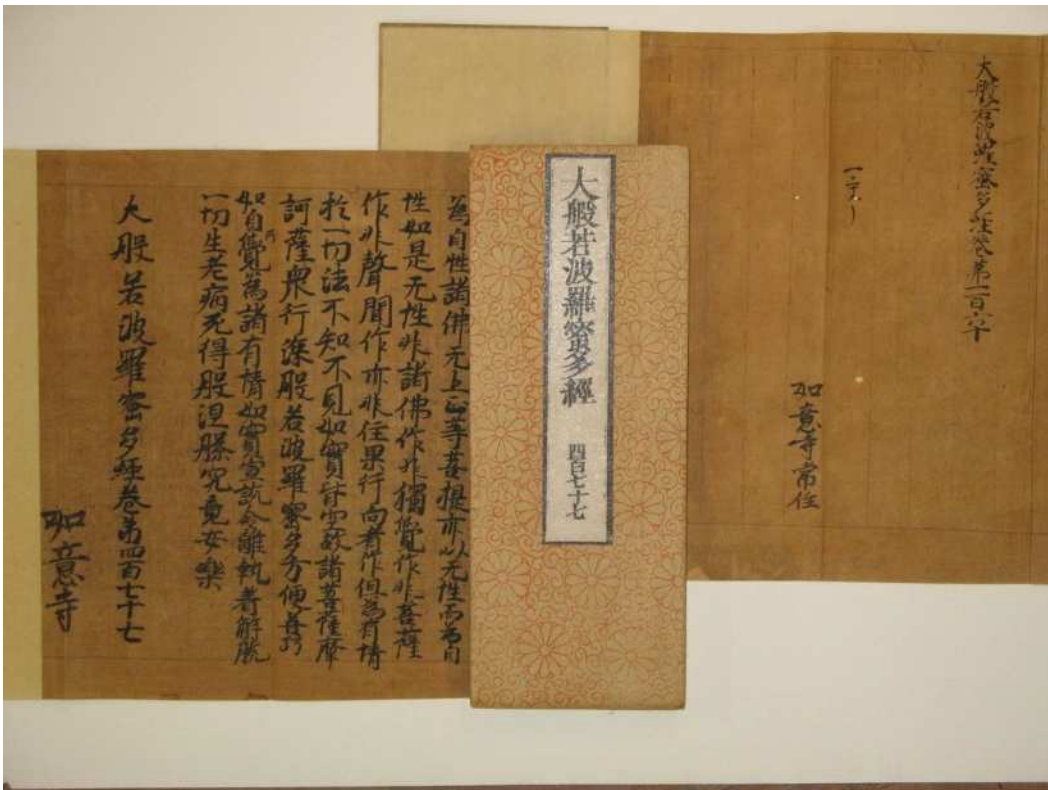
参考文献:

神戸市立博物館編『神戸の文化財Ⅱ-神戸市指定文化財を中心に-』展図録、神戸市教育委員会、2007  
 加東市・多摩美術大学美術館編『神仏人 心願いの地』展図録、2018  
 問屋真一「【資料紹介】如意寺所蔵の大般若経-平安時代後期の混合経の一例について-」、『神戸市立博物館研究紀要』37、神戸市立博物館、2022  
 三木市史編さん委員会編『新三木市史』4巻資料編古代・中世、2023

(※画像・奥書銘文・目録は『紀要』から利用。)



木箱 (卷第 1-50)



大般若經現狀

以故后十方界如燒伽沙一切如來應正等  
 覺若三示導若所宣說十二小教皆依般若  
 波羅蜜多而出生故世尊若善男人善女人  
 等以无量種上妙花鬘塗散香衣服瓔珞  
 寶幢幡蓋眾妙珍奇伎樂燈明畫諸所有供  
 養恭敬尊重讚歎十方世界如燒伽沙一切如  
 來應正等覺有善男子善女人等書寫般若  
 若波羅蜜多亦以无量上妙花鬘塗散香  
 衣服瓔珞寶幢幡蓋眾妙珍奇伎樂燈明畫  
 諸所有供養恭敬尊重讚歎其二功德平等  
 元異何以故彼諸如來應正等覺皆依般若  
 波羅蜜多而出生故

大般若波羅蜜多經卷第一百廿七  
 一  
 仲吉  
 經下四  
 長治年 歲次 九月 吉 辰 卯  
 願自賢照  
 筆取僧應安

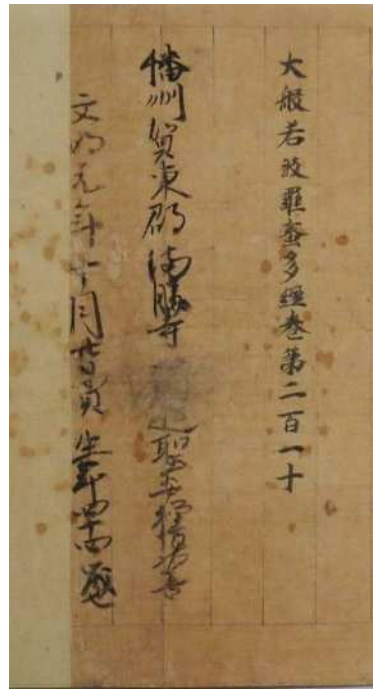
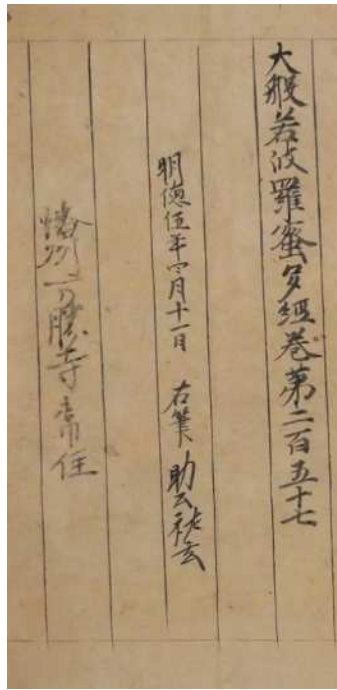
中山寺經（卷第 127 奧書）

寶多不作是念有法與法若相應若不相應  
 若等若不等何以故舍利子是言菩薩摩訶  
 不見有法與法若相應若不相應若等若不  
 等故舍利子諸菩薩摩訶薩行般若波羅  
 蜜多與如是法相應故當言與般若波羅蜜  
 多相應

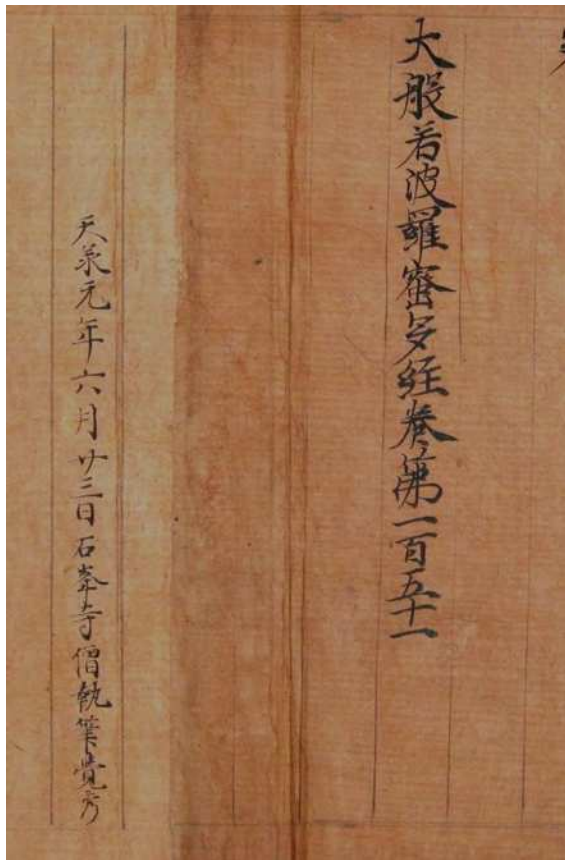
大般若波羅蜜多經卷第四百八十  
 天養二年 歲次 三月十日 博多國 慈覺寺  
 書馬巴果 勸達理人高男等 法備  
 聖察諸師助成眾 弘大威重 文卷  
 數多 而止 進正安隱 後法善慶  
 法鼓清談 誠勿法 妙經書 莫克

常隆寺經（卷第 480 奧書）

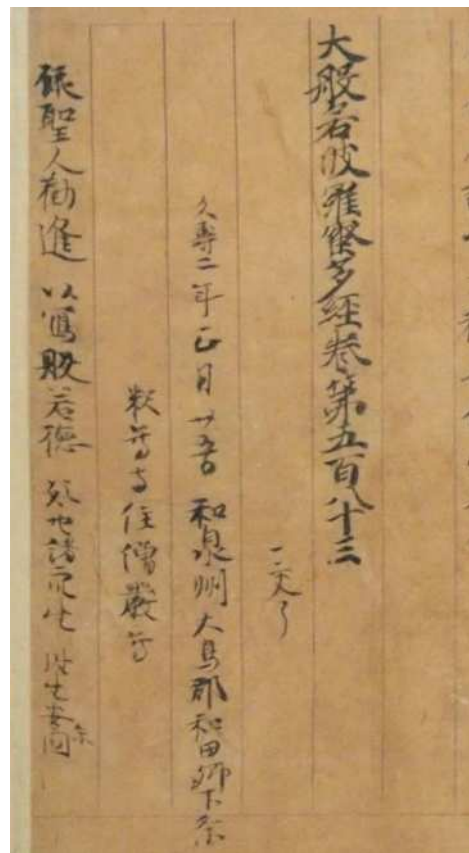




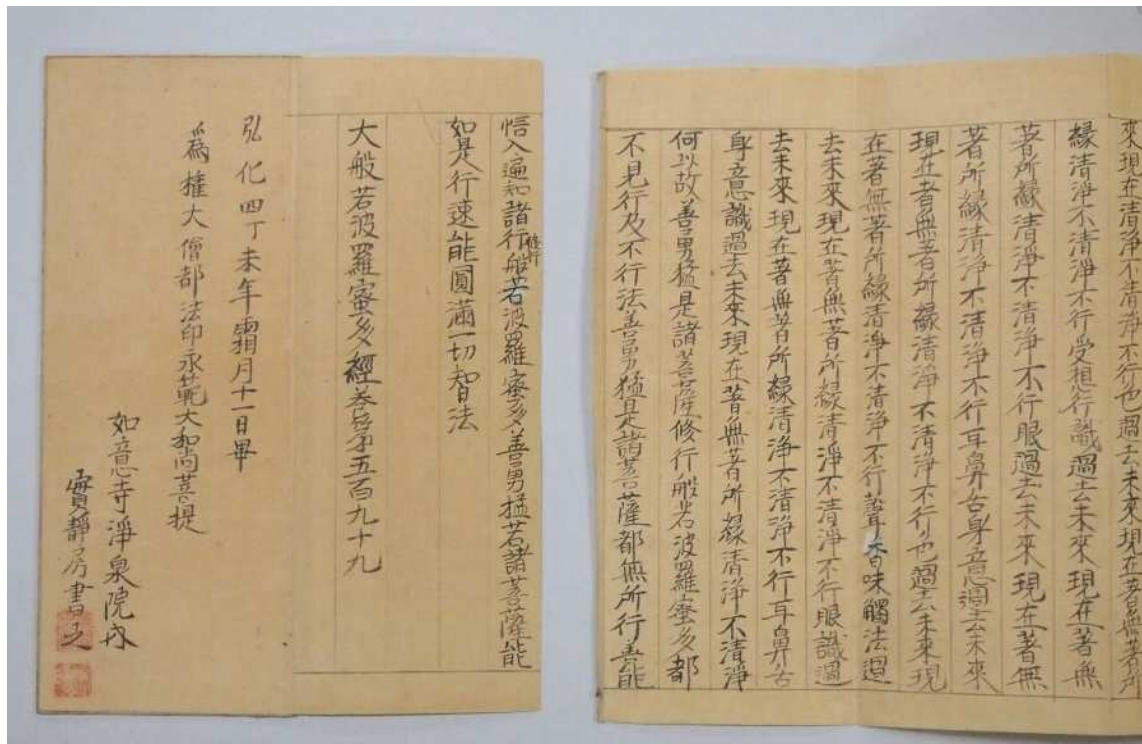
常隆寺經 (萬勝寺 左から 卷第 201 奥書・卷第 257 奥書・卷第 210 奥書)



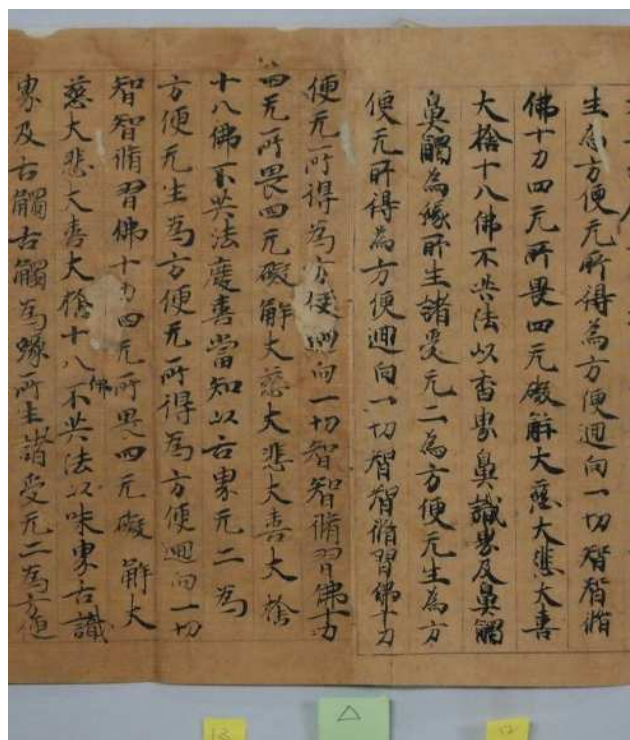
石峯寺 (卷第 151 奥書)



積尊寺 (卷第 583 奥書)

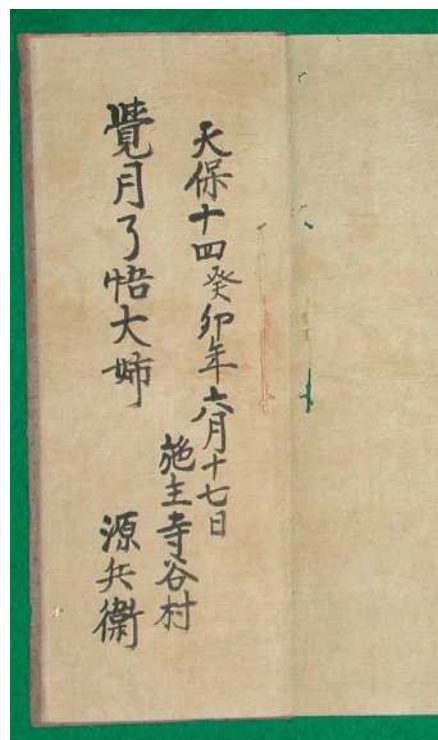


江戸時代補卷（卷第 599 奥書）



補修狀況【補簡】（卷第 108）

※中央部分で文字重複



江戸時代修理銘（卷第 1 奥書）

## 凡例

- ・奥書・修理銘は常隆寺経と判断できるものには巻次に網掛けを、同じく中山寺経では奥書・修理銘に網掛けをしている。擦り消して判読不明な文字は■とする。
- ・各紙幅では、現状の数値を記載する。必要に応じ、界高は( )、料紙の質、書写時期の変化の箇所を / で示している。
- ・校訂は、記載のままの文字で表記し 朱書きは(朱)とする。※は特記事項に記入したことを表す。なお巻末の裁断で失われたものも少なくない。
- ・状態、特記事項等は必要に応じて記載した。なお同筆、異筆等の記載は必要と思われる箇所では明瞭に判断できるものを記載した。記載がないから異筆、または同筆という訳ではない。
- ・料紙幅及び特記事項の○囲い数字は、巻頭からの料紙順を示す。●囲い数字は、巻末からの料紙順を示す。
- ・料紙の縦幅は、23.4～24.1センチで、そのほとんどが23.9センチである。ただし、天保年間の改装により当初の寸法は不明。

・5帙(10帖/帙)を納める木箱は幅54.7 高さ22.8 奥行28.4センチである。

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
1	覚月了悟大姉/天保十四癸卯年六月十七日/施主寺谷村/源兵衛	①25.0②40.0③15.6/④41.4⑤40.8⑥40.0⑦37.5⑧⑨⑩40.6⑪40.7⑫40.9⑬40.7⑭40.9⑮41.0⑯⑰40.8⑱⑲40.9⑳⑳41.0㉑㉒38.0		虫損 裏表紙糊離れ	序文(江戸時代)あり「大般若經初會序 西明寺沙門玄則製 …」とは異なる序文「大唐三藏聖教序」及び大唐大慈恩寺三藏法師傳卷第七の一部を引用 ⑤-⑦は一筆か
2	覚翁了居居士/天保十四癸卯年六月十七日/施主寺谷村/源兵衛	①38.5②40.3③40.0④40.5⑤⑥40.3⑦11.8⑧21.0⑨40.8⑩⑪40.5⑫⑬⑭40.5⑮40.5⑯⑰40.5⑱⑲40.0⑳㉑34.0㉒40.8㉓36.9		虫損 カビ痕 シミ	⑧と⑨、⑪と⑫の各継目に文字がのらないよう小さく書写する
3	先祖代々菩提/天保十四癸卯年六月十七日/施主寺谷村 源兵衛	①32.5②40.8③41.0④40.5⑤40.9⑥⑦⑧⑨40.8⑩⑪⑫37.3⑬⑭38.5⑮20.2		虫損 カビ痕	改装時、上端の文字一部切断 ⑧-⑩の紙背にマークの判あり
4	秋月恵照信士/天保十四癸卯年六月十七日/施主小神村/伊左衛門	①38.8②40.6③④⑤40.8⑥41.0⑦40.2⑧⑨40.9⑩⑪40.8⑫39.5		虫損 表紙・裏表紙糊離れ シミ	改装時、文字行の中央を切って継目とする ⑧⑨他の紙背にマークの判あり
5	為 先祖代々/施主寺谷村/角左衛門/磯吉	①39.5②40.3③④⑤40.5⑥40.3⑦⑧⑨40.5⑩⑪16.6		虫損	改装時、文字行の中央を切って継目とする
6	先祖代々/施主寺谷村 幸左衛門/久兵衛 吟蔵/乙松 吉左衛門	①37.7②③④40.5⑤21.1		虫損	継目に文字がのる
7		①38.0②③④40.8⑤36.0		虫損 糊離れ	改装時、文字行の左端裁断し 文字の左の一部切れる
8	家内安全/施主寺谷村 磯治郎	①40.1②41.3③④41.0⑤40.7⑥41.2⑦⑧⑨41.2⑩⑪41.5⑫3.7		虫損	
9		①34.7②41.3③41.1④41.2⑤⑥⑦41.3⑧7.1		虫損 汚れ	
10		①39.5②40.6③3行5.0④34.0⑤⑥⑦41.0⑧23.0			
11	為 一翁田西信士/施主寺谷村 九兵衛	①30.8②23.6/③33.3④47.8⑤48.0⑥⑦47.8⑧47.3⑨47.3⑩47.1⑪⑫47.0⑬54.0⑭53.8⑮53.6⑯54.0⑰⑱53.8⑲55.5⑳㉑51.4	一交了	虫損 汚れ	③以降、一筆(癖強い文字) ⑫⑬に朱点あり
12	為 庸亡童子/施主寺谷村 九兵衛	①43.5②③45.3④⑤45.5⑥⑦45.9⑧45.8⑨⑩⑪45.5⑫45.9⑬45.3⑭⑮45.9⑯45.8⑰⑱49.3⑲31.4		カビ痕 汚れ	
13	覚月静翁信士/施主 寺谷村 市兵衛	①50.2②③54.5④53.5⑤21.7⑥54.4⑦54.5⑧54.8⑨55.0⑩18.1⑪54.0⑫54.7⑬54.3⑭53.5⑮25.6 ⑯53.0⑰⑱54.5⑲14.3	一交了	カビ痕	①-④と⑥-⑮は同筆、①-④と⑥-⑮は⑤、⑮以降と異筆 ⑮の途中で筆跡が変わり、①-⑮に似る ⑤の前後、⑩の前後、⑮の前後で錯簡なし
14	家内安全/施主寺谷村 常三郎	①49.3②54.0③53.6④53.5⑤⑥47.0⑦55.5⑧⑨55.7⑩47.0⑪46.7⑫46.5⑬46.0⑭46.0⑮44.6⑯55.8⑰3.1	一交了	虫損	料紙規格の変わる前後は同筆だが、料紙の途中を含め何度か手がかわる、⑮と⑰は異筆
15	商売繁盛/施主寺谷村 常三良	①46.5②49.2③④49.5⑤49.3⑥⑦49.5⑧⑨49.7⑩50.1⑪46.2⑫46.3⑬⑭46.1⑮46.2⑯46.0⑰48.6⑱29.5	一交口(了)	カビ痕 汚れ	
16	家内安全/施主寺谷村 清右衛門	①45.5②49.8③④49.4⑤42.0	一交了	カビ痕 虫損	
17	先祖代々/発光浄慶信士/寺谷村 吟兵衛 伊左衛門	①7.6②45.1③④55.5⑤55.7⑥51.0⑦50.7⑧50.8⑨40.3⑩29.7⑪42.9⑫42.6⑬⑭42.8⑮42.9⑯41.2		虫損	①は②以降とほぼ同時期だが 異筆
18	家内安全/施主 寺谷村 兵治郎	①44.6②46.1③58.9④49.1⑤49.0⑥46.1/⑦50.5⑧50.5⑨50.6⑩⑪55.6⑫⑬47.3⑭56.5⑮56.2⑯14.7⑰2.2	一交了	カビ痕	⑥と⑦は同筆、⑦の文字右端が⑥にかかると、⑧-⑩一筆
19	為 先祖代々/施主寺谷村 清兵衛	①44.0②47.5③④47.5⑤42.5/⑥7.5/⑦49.5⑧43.5⑨⑩49.5⑪⑫49.0⑬48.5⑭⑮49.0⑯43.0	一交了	カビ痕 裏表紙糊離れ	⑥は⑤⑦と異筆
20	為 春林清光信士/施主寺谷村 久右衛門	①38.5②12.5③51.7④⑤51.4⑥51.0⑦51.4⑧⑨⑩51.7⑪⑫⑬49.3⑭33.1⑮49.3⑯43.8	一交了	虫損	⑫と⑬は同筆
21	玉露童女/六親眷屬/施主 寺谷村 /久蔵 同主計 /養母	①39.0②③44.8④⑤45.2⑥43.6⑦46.7⑧⑨47.5⑩46.2	一交了	虫損 裏表紙糊離れ	
22	天保十四癸卯年六月十七日/觀山善空信士/施主寺谷村/力三郎	①43.0②47.7③④47.5⑤47.8⑥⑦47.8⑧⑨47.5⑩⑪45.8⑫37.8	一校了	表紙の糊付け不良	⑮と⑯は同筆

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
23	円采女松齋源利一居/定部手匂信女/峯月浄見信士/寺谷村/主計妻 同/義右衛門	①52.6②-④55.7⑤44.5⑥44.0⑦44.3⑧⑨44.1⑩44.2⑪44.0⑫44.2⑬⑭44.0⑮44.2⑯6.2⑰5.5⑱34.0⑲27.0⑳47.7㉑23.3㉒44.1㉓24.3	一交了		④と⑤は同筆、⑮と⑯と⑱は同筆で㉑とは異筆、⑲と㉒は同筆で㉓とは異筆、⑰と⑱は同筆、⑰⑱は補写カ補簡カ ⑮-㉑で錯簡なし ⑱の文字の右端は⑰の紙で隠れる。
24	請山友観信士/珍山浄体信女/施主 寺谷村/作治平	①40.7②-⑤44.2⑥45.6⑦-⑪44.4⑫44.2⑬44.4⑭-⑯44.1⑰44.5⑱⑲44.1⑳39.8	一交了	カビ痕	⑩の途中で手が変わる
25	□□□□ 一心徳入信士/施主寺谷村/宇兵衛	①42.9②③45.4④⑤45.5⑥45.6⑦45.5⑧⑨45.6⑩45.8⑪45.6⑫45.3⑬44.1⑭-⑰44.1⑱44.3⑲43.8⑳44.2㉑34.8	一交了	カビ痕 汚れ	⑫と⑬は同筆 首題下、改装時の裁断で文字痕跡
26	先祖代々/施主寺谷村/宇兵衛	①7.0②③44.2④⑤44.2⑥44.3⑦44.2⑧44.6⑨44.5⑩44.3⑪44.4⑫46.0⑬-⑮45.8⑯45.6⑰45.8⑱45.6⑲46.0⑳38.2	一交了	虫損 カビ痕 汚れ	⑤の途中で手が変わる
27	家内安全所願成就/施主寺谷村/庄兵衛	①40.2②45.7③46.1④45.7⑤⑥46.1⑦⑧46.0⑨⑩45.8⑪46.0⑫⑬45.7⑭-⑯45.5⑰-⑱45.8⑲45.4⑳43.3		カビ痕 汚れ	③多筆
28		②-④42.1 ①10.6			
29	家内安全/施主寺谷村/兵五郎	①42.0②45.0③45.2④45.5⑤-⑦45.2⑧45.4⑨45.0⑩43.7⑪53.9⑫-⑭54.3⑮47.2⑯47.5⑰47.0⑱47.2⑲10.4	一交了	虫損	
30	先祖代々/施主寺谷村/仙治良	①48.6②③53.0④39.5⑤1.8⑥-⑰53.0⑱45.2⑲24.1		虫損	虫損等で欠損の文字を補写して書き足す
31	為 先祖代々/施主/寺谷村 治兵衛	①49.6②51.4③51.5④48.8⑤48.7⑥48.5⑦⑧48.7⑨48.4⑩⑪48.3⑫48.5⑬49.0⑭⑮48.5⑯47.5⑰43.5⑱7.1⑲5.1⑳36.5㉑32.4㉒42.0㉓12.2		虫損	
32	為 先祖代々/施主/寺谷村/治兵衛	①40.5②33.0/③47.5④47.7⑤48.0⑥-⑧47.8⑨48.0⑩⑪47.2⑫⑬47.8⑭47.5⑮47.8⑯47.6⑰⑱47.4⑲47.7⑳10.5		虫損	
33	為 先祖代々/施主/寺谷村/義兵衛	①51.0②54.3③53.8④49.3⑤⑥49.0⑦-⑨49.2⑩-⑮49.5⑯⑰49.3⑱35.0	一交了	虫損	③と④の継目に文字がのる、同筆
34	為 春岸妙善信女/了凉月通性信士/壺/施主寺谷村/長兵衛	①45.5②49.5③49.3④⑤49.5⑥⑦49.0⑧-⑱49.2⑲-⑳49.0⑳6.2	一交了	虫損	
35	為 義山実運信士/秋月道光信士/施主 寺谷邑/安右衛門	①41.0②-④44.4⑤44.8⑥⑦45.0⑧44.8⑨⑩45.0⑪44.8⑫⑬45.0⑭44.8⑮⑯44.6⑰35.2			
36	弘化三丙牛歳八月八吉 山王社鶴齋	①33.0②41.6③41.8 ①30.6②41.6③44.8			
37	為 宝華池生信士/先祖代々/施主寺谷村/与一左衛門/同/作左衛門	①41.0②44.7③44.9④45.2⑤44.7⑥45.0⑦⑧44.7⑨-⑪44.5⑫45.0⑬44.6⑭-⑯44.7⑰43.5⑱44.2⑲44.5⑳11.2	一交了		
38	為 性円光徳信士/施主/寺谷村/徳左衛門	①42.1②44.3③44.5④-⑥44.6⑦45.3⑧⑨44.8⑩-⑰44.6⑱14.5⑲42.8⑳39.1㉑㉒44.2㉓3.8	一交了	虫損	
39	為 先祖代々/施主/寺谷村/忠兵衛	①41.0②-④44.3⑤⑥44.3⑦-⑱44.4⑲42.6⑳44.2㉑42.5㉒42.9㉓19.3	一交了	虫損	
40	為 深山喜廣信士/施主/寺谷邑 忠兵衛	①38.3②43.5③44.0④44.2⑤44.1⑥⑦44.0⑧-⑱44.2⑲25.0	一交了		
41	明德五甲戌三月十七日 為 法山量源信士/施主/寺谷村/藤左衛門	①36.6②39.2③39.3④39.1⑤38.8⑥36.6⑦37.1⑧18.2⑨36.4/⑩12.0⑪⑫42.4⑬38.9⑭-⑯42.3⑰7.3⑱34.2⑲-㉑42.2㉒42.0㉓-㉔42.5㉕20.0	一交了	虫損 糊離れ 一部欠失	③左端切断
42	為 法岸妙量信女/施主/寺谷村/藤左衛門	①33.4②41.9③42.3④42.2⑤29.5⑥16.7⑦7.8⑧28.4⑨44.0⑩44.3⑪44.0⑫43.7⑬44.2⑭44.6⑮43.4⑯42.8⑰43.2⑱44.5⑲44.3⑳44.5㉑44.3㉒38.6			⑦と⑧の継目の行間に1行書き足す
43	応永四丁丑六月七日 覚 息災延命/施主/寺谷村 忠兵衛内/まき	①37.8②③41.1④5.0⑤38.2⑥-⑧39.2⑨38.9⑩38.8⑪38.9⑫38.6⑬38.8⑭32.0⑮38.5⑯39.1⑰39.5⑱38.6⑲39.9⑳38.0㉑9.8/㉒41.8㉓18.5/㉔23.8/㉕22.0/㉖41.5㉗43.5㉘41.8		一部欠失 虫損	①-㉑一筆、㉒-㉘一筆
44	為 先祖代々/施主/寺谷村/草左衛門	①37.9②40.1③11.9/④56.3⑤51.5⑥51.3⑦-⑱51.5⑲51.3⑳50.0/㉑46.5/㉒35.0⑳56.1㉓18.5	一交了	虫損	④-⑯一筆、⑰-⑱で錯簡なし
45	為 一頼元乘居士/先祖代々/施主・寺谷村・庄太夫	①36.0/②38.0③37.5④⑤38.5⑥39.0⑦38.7⑧39.0⑨38.8⑩-⑬39.0⑮19.5⑯37.3⑰38.5⑱38.7⑲-㉑39.0㉒38.8㉓37.2		虫損 一部欠失	②と③は同筆だが、継目で1行欠落 ⑩-⑯一筆で錯簡なし、⑬と⑭の継目に文字のる、⑭-⑯で錯簡なし
46	為 一翁清桃大師 /施主/寺谷村/庄太夫	①33.5/②36.1③38.5④38.9⑤38.8⑥38.3⑦38.8⑧38.2⑨38.8⑩38.2⑪⑫38.5⑬-⑱38.7⑲34.5⑳37.5㉑26.3		虫損 一部欠失	
47	明德五年甲戌三月十一日 令書了 為 春山良慶信士/施主/寺谷村/庄太夫	①21.0②17.7③13.3④27.4⑤無量百千42.4⑥42.5⑦-⑱42.7㉑26.2	一交了		



巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
48	為 徳応道隣信士/先祖代々/施主/寺谷村/栄助/善兵衛	①11.5/②32.5③④47.5⑤47.8⑥49.0⑦49.8⑧⑨49.5⑩52.2⑪52.5/⑫49.3⑬49.1⑭46.5⑮51.6⑯49.2⑰48.6	一交了		
49		②42.0			
50	為 定性童子 施主/寺谷村/伊兵衛	①②36.8③38.2④-⑤38.9⑥31.5		虫損	
51	商売昌栄 施主/朽木村/治兵衛	①45.3②50.1③44.6/④49.3⑤49.2⑥-⑦49.5⑧49.0⑨49.6⑩49.3⑪-⑫49.5		表紙糊離れ	③と④で料紙の色異なるが、同筆で錯簡なし 木箱(巻第51-第100)のつまみ欠失 巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
52	商売繁栄/施主/朽木村/与兵衛	①49.0②53.2③53.7④54.0(糊代含め55.0)⑤⑥53.5⑦54.0⑧-⑨54.3⑩54.0⑪54.1⑫54.0⑬54.2/⑭-⑮49.3		表紙・①-③糊離れ 虫損	巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
53	家内安全/施主/朽木村/勝三郎/忠兵衛/市太郎/茂右衛門/直次郎/仁兵衛/政次良	①47.7②51.5③④51.3⑤-⑥51.8⑦51.5⑧52.0⑨51.8⑩51.6⑪⑫51.6⑬-⑭51.8⑮30.8	一交了		巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
54	法性常恵信士/諦覚妙空信女/施主 朽木村/林兵衛/芳兵衛	①42.6②47.5③49.2④⑤49.0/⑥46.0⑦46.5⑧45.5⑨48.7⑩46.5⑪45.5⑫45.7⑬45.5⑭45.7⑮45.5⑯43.2⑰⑱45.3⑲45.0⑳21.9			①の行間に1行(「及應遠離…摩訶薩」)書き足す、①最後の行重複 巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
55	先祖代々/施主 朽木村/長兵衛	①41.5②44.3③46.1④45.5⑤43.5⑥2.4(1行)⑦46.8⑧46.2⑨45.6⑩46.5⑪46.3⑫46.5⑬45.5⑭-⑮45.7⑯45.3⑰7.5			巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
56	先祖代々/先祖代々/施主 朽木村/弥次兵衛/茂兵衛	①41.2②44.8③46.2④46.0⑤⑥46.0⑦46.2⑧46.5⑨45.0⑩46.2⑪46.2⑫45.0⑬46.3⑭⑮44.8⑯45.2⑰44.8⑱45.9⑲44.6⑳45.0㉑28.2		虫損	巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
57	先祖代/施主 朽木村/弥兵衛/猶右衛門	①44.5②49.3③49.5④-⑤49.6⑥49.3/⑦⑧45.5⑨11.5	一交了	虫損	巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
58	昌山浄栄信士/清雲妙智信女/施主朽木村/九兵衛	①45.0②-③49.0④49.5⑤49.0⑥17.2⑦26.8⑧44.0⑨⑩44.6⑪45.0⑫⑬44.5⑭31.3			⑦の途中から手が変わる それまでと⑩以降は同筆 ⑩-⑫で錯簡なし 巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
59	其か屋妙理信女/寛月道融信士/月峯妙融信女/丹峯妙仙信女/施主朽木村 源右衛門	①41.6②45.5③46.2④46.5⑤46.2⑥46.5⑦45.8⑧46.4⑨46.0⑩45.5⑪46.0⑫46.2⑬45.8⑭45.3⑮47.1⑯⑰45.8⑱45.3⑲38.3		表紙など糊離れ	巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
60	応永四丁丑六月九日 白順清桃信士/鏡岳妙照信女/施主朽木村/猶右衛門/平右衛門/荘兵衛/勝三郎	①51.0②③54.5④54.3⑤-⑥54.5⑦54.3/⑧43.8⑨43.5⑩15.2		擦れ	巻51～60の帙表紙裏 朽木村銘々
61	信心堅同所願成就/施主池谷村/山本氏源兵衛	①51.6②53.1③57.3④-⑤53.2⑥45.2⑦45.4⑧⑨45.3⑩37.5	一校畢		⑰で誤字8文字を切り取り、別の経巻の該当部分を貼る(もとの界線あり)、補簡
62	宝岸寿啓居士/宝月寿貞信女/先祖代々/施主池谷村 小池宗兵衛	①27.0②30.8/③27.5④39.2⑤-⑥43.6⑦⑧44.0⑨⑩43.5			
63	応永四丁丑六月十二日 宝岸浄翁信士/観光定戒信士/施主池谷村/忠三郎/同村吉兵衛志/王子四良兵衛	①46.0②13.0/③12.7/④22.1⑤-⑥49.2⑦45.5/⑧43.5⑨43.2⑩⑪44.0⑫⑬43.5⑭15.9		虫損	②の左端にもとの③の文字右端が残る、③は補写カ ④の途中で手が変わる
64	先祖代々/施主池谷村/与治右衛門/清治郎	①34.3②5.2/③2行3.4④46.0⑤46.5⑥46.7⑦46.2⑧46.7⑨⑩47.2⑪46.8⑫47.0⑬⑭46.7⑮⑯47.0⑰46.8⑱28.8		虫損	①と②は同筆で③以降とは異筆、①-④で錯簡なし
65	覚浄浄頼信士/円応妙覚信女/安養妙心信女/施主池谷村/吉兵衛	①30.1②37.8③37.9④18.0/⑤46.3⑥46.6⑦47.0⑧47.1⑨⑩47.0⑪46.0⑫⑬47.3⑭47.5⑮⑯47.7⑰15.3	一校了	水浸の文字あり	⑤-⑯一筆カ、①-⑤で錯簡なし
66	覚阿清心信士/無縁法界/施主池谷村伊左衛門 /同村/忠左衛門	①30.6/②12.9③48.9④49.0⑤-⑥49.2⑦49.3⑧38.0⑨⑩9.5⑪⑫⑬48.0⑭⑮47.8⑯⑰47.8⑱20.2	一校了	虫損 ①の一部欠失	①と②で界高のずれ大、②-⑯一筆
67		①25.5/②15.4③44.1④43.8⑤-⑥44.0⑦44.2⑧⑨44.0⑩⑪44.0⑫⑬43.6⑭⑮43.8⑯28.0	一校了		②-⑯一筆 朱点あり
68		①43.7②43.9③44.2④44.1⑤44.5⑥-⑦44.2⑧44.5⑨44.0⑩43.1⑪44.5⑫⑬44.3⑭⑮44.5⑯⑰44.2⑱16.5		虫損 カビ痕	
69		①40.5②44.0③43.6④-⑤44.0⑥45.4	一校了	①の一部欠失	



巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
70	施主池谷村/元三郎	①46.0②49.0③-⑤49.3⑥49.0⑦⑧49.2⑨-⑬49.5⑭⑮18.6⑯31.7⑰⑱51.3 ⑲51.4⑳48.0㉑2.6㉒27.3	一交了	虫損 汚れ 一部欠失	⑬-⑱一同筆 ⑱の左端に1行書き足す、㉑の文字の右端 ⑲の料紙にのる
71	施主池谷村/先祖代々/先祖代々/庄右衛門 兵太夫/善兵衛 藤兵衛/定兵衛 太兵衛/久左衛門 兵治良/以上(本紙)	①39.1②46.8③46.8④46.9⑤-⑪46.8/⑫-⑮43.2⑯1行1.8⑰40.3⑱43.0⑲ 42.8⑳41.3㉑55.0㉒30.3			巻71～80の帙表紙裏 天保十四癸卯/四月 施主/池谷村 銘々
72	心元義空信士/先祖代々/施主池谷村/利兵衛/伊三良	①45.8②49.1③④49.5⑤45.5⑥38.0⑦-⑪49.5⑫38.2⑬⑭43.2⑮⑯49.5⑰ 49.7⑱42.5		一部欠失	
73	観月妙光禪定尼/観光量啓禪定門/施主/池谷村/市兵衛	①45.1②47.5③-⑦47.0⑧⑨47.1⑩-⑬47.5⑭47.0⑮47.5⑯-⑲47.3⑳9.5		虫損 カビ痕	
74	清雲自光信士/清室妙光信女/施主池谷村 作兵衛	①47.8②48.8③47.2④-⑦49.3⑧31.9		カビ痕	
75	応永四丁丑六月十三日	①51.2②53.3③52.4④-⑥53.4⑦2.0(1行)⑧50.5⑨⑩53.0/⑪25.9⑫43.6⑬ 43.8⑭43.5⑮43.8⑯⑰43.5⑱38.9			⑩と⑪で錯簡なし
76	先祖代々/施主池谷村/治兵衛	①17.0/②30.1/③-⑤46.3⑥-⑧46.5⑨⑩46.2⑪46.5⑫⑬46.0⑭46.2⑮ 38.4		カビ痕	②は③以降と異筆、錯簡なし、②は補写カ ③-⑮一筆
77	先祖代々/光月妙恵信女/施主池谷村/重右衛門/九兵衛	①39.5②44.6③-⑮45.0⑯44.8⑰⑱45.0⑲30.2			
78	円覚義法禪士/観月照順信士/安月妙光信女/施主池谷村/清兵衛	①37.8②2.0/③12.1④51.4⑤-⑧51.3⑨-⑪51.0⑫-⑬51.2⑭51.0⑮48.0/ ⑰12.5/⑱13.0		虫損	①と②は同筆、③-⑮と⑱は同筆、①②と③は異筆、①- ④、⑮-⑱で錯簡なし ⑰は⑱と異筆で界高のずれ、錯簡 なし ①② ⑰は補写カ
79		①44.2②49.5③50.0④⑤49.8⑥48.5⑦48.8⑧⑨48.5⑩48.8⑪-⑮48.5⑰ 21.4		①汚れ 虫損	
80	先祖代々/施主池谷村/弥次兵衛	①43.0②-⑱45.3⑲28.1		虫損	
81	林啓徳翁禪定門/林光妙周信女/施主長谷村/義三藏	①33.1②37.2/③43.4④43.7⑤⑥43.3⑦23.5/⑧34.7⑨54.3⑩54.2⑪54.4⑫ -⑰54.5⑱52.2			①と②は同筆、③-⑦一筆、②と③は異筆 ⑦と⑧の継目の 紙背にマーク(印)あり
82	春山明覚信士/先祖代々/先祖代々/施主長谷村/辰五郎/六兵衛/政次良	①47.3②49.1③-⑤49.6⑥44.6⑦49.5⑧50.0⑨⑩49.6⑪-⑬50.2⑭50.4⑮ 50.3⑯30.0			⑥の文字が⑤⑦との継目にのる
83	秋月浄観信士/智岡妙涼信女/施主長谷村/兵助	①47.6②49.9③49.6④-⑮50.0⑯42.4		カビ痕 ①汚れ	
84	施主長谷村/九兵衛/幸左衛門/八百藏/作平/喜兵衛/義三良/庄吉/嘉兵衛	①46.2/②1行2.8③48.7④⑤49.0⑥48.8⑦⑧49.0⑨49.2⑩48.8⑪⑫49.1⑬ 48.5⑭48.9⑮49.0⑯48.8⑰18.7		カビ痕 ①汚れ	①と②③は異筆、錯簡なし、①は補写カ
85	先祖代々/施主長谷村/弥三郎	①48.5②③50.3④50.6⑤48.8⑥⑦49.0⑧49.3⑨-⑮49.0⑯6.7		カビ痕 ①汚れ	④と⑤の継目に文字のる
86	先祖代々/施主長谷村/与左衛門	①15.7/②34.4③50.0④50.3⑤⑥50.0⑦50.3⑧-⑫49.0⑬-⑱48.7⑲10.6		②汚れ	
87	円峯妙相信女/台岳常円信士/施主長谷村/弥平次	①47.7②③49.7④49.9⑤-⑮50.0⑯39.3		カビ痕 巻頭汚れ	
88	先祖代々/施主長谷村/徳右衛門	①48.0②③49.6④⑤49.7⑥-⑱49.8⑲48.1		カビ痕 一部欠失 ① 汚れ	
89	先祖代々/施主長谷村/作兵衛	①47.0②49.4③49.2④49.4⑤49.1⑥-⑮49.1⑯25.7⑰22.0⑱27.1		①汚れ	
90	心岸了源信士/施主長谷村 久右衛門/五巻之内	①25.8/②25.3③50.0④-⑥50.4/⑦48.8⑧-⑱48.5⑲48.6⑳48.5⑳48.6⑰ 48.2⑱16.6		糊離れ ①汚れ	①と②は異筆、①は補写カ
91	維時弘化四丁午年三月 永野弘孝謹書 写之	②42.0			
92	秋山了海信士/施主長谷村/久右衛門/五巻之内	①47.2/②40.5③45.0④44.7⑤45.2⑥45.0⑦45.2⑧⑨45.2⑩45.5⑪45.5⑫ 44.8⑬45.4⑭⑮45.2⑯15.7			墨界なしの箇所あり 錯簡なし

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
93	春光妙円禪定尼/施主長谷村/久右衛門/五巻之内	①44.5②43.0③44.2④45.6⑤44.7⑥-⑧45.7⑨45.2⑩-⑫47.7⑬44.8⑭⑮45.1⑯44.8⑰8.0		虫損 一部欠失 ①汚れ	墨界なしの箇所あり 貼紙あり
94	春山宗悦信士/施主長谷村/久右衛門/五巻之内	①7.8②43.5③34.7/④38.0⑤44.8⑥45.3⑦-⑩45.2⑪⑫44.7⑬44.8⑭45.1⑮40.0⑯44.8⑰19.5			墨界なしの箇所あり ③と④の継目の紙背にマークあり
95	知法妙性信女/施主長谷村/久右衛門/五巻之内	①39.0②41.4③39.8④⑤40.6⑥40.1⑦39.8⑧40.0⑨40.7⑩40.3⑪39.2⑫⑬37.5⑭39.8⑮-⑯39.2⑰39.5⑱17.5		虫損	継目でない⑬の紙背にマークあり
96	応永四年丁丑六月十八日 先祖代々/施主長谷村/宗左衛門	①33.8②39.0③16.5④⑤38.5⑥39.3⑦4.8/⑧-⑩44.2⑪44.2⑫44.0⑬-⑮44.2⑰-⑱44.5⑲41.0			
97	先祖代々/施主長谷村/定右衛門	①45.4/②34.4③-⑥40.0⑦-⑩40.2⑰18.8			②以降で墨界なしの箇所あり
98	寂月浄光信士/寂岸教覚信士/冥/施主長谷邑・彌治兵衛	①29.9/②12.0③46.4④-⑩46.6⑰7.0		虫損 ①汚れ	①と②③は異筆、脱字、錯簡なし、①は補写か 補写のあとに水濡
99	先祖代々/施主長谷村/治兵衛	①45.1②49.0③-⑤49.2⑥⑦48.7⑧-⑩48.9⑫48.5⑬-⑮48.9⑰47.0⑱12.9			
100	施主長谷村/善右衛門/伊右衛門/善三良/フサ/清右衛門/八良兵衛/義右衛門	①46.1②2.0③-⑥50.1⑦⑧50.7⑨-⑩50.2⑫-⑭50.7⑮43.9/⑯13.7/⑰⑱6.8⑲43.5			⑮補写か、錯簡なし
101		①13.0/②22.8③40.8④38.8⑤40.3⑥40.6⑦40.2⑧40.0/⑨13.3⑩29.5/⑪19.0/⑫47.6⑬47.5⑭47.7⑮47.4⑯47.4⑰47.7⑱47.2⑲-⑳36.5			⑨-⑩と⑫-⑲は同筆、⑨の界高は⑩、⑫とズレ、⑩と⑪で「眼」が重複、⑧と⑩は同筆で補写か 木箱(巻第101-第150)左側板、奥板の釘欠失、蓋の上下棧外れる
102		①11.0②40.5③10.3④32.5/⑤45.3⑥47.5⑦⑧47.2⑨47.5⑩⑪47.2⑫-⑬47.5⑭27.8	一交了		④と⑤で錯簡なし
103	為 清岳良浄信士 心窓妙安信女 頓証 菩提/弘化三丙午歳霜月下句於清養山/ 法泉寺性善房 書之	②42.5			
104		①14.0/②42.8③9.4/④1.7⑤⑥47.5⑦47.8⑧-⑩47.5⑰18.7	一交口※		③と④で錯簡なし ④(1行)と⑤は同筆 ※校訂の口は削除痕
105		①21.6②31.1/③38.6④-⑥47.8⑦-⑨47.3⑩-⑫47.6⑬47.8⑭-⑯47.6⑰18.0	一交了		②と③で錯簡なし ⑨と⑩の継目で「空」が重複
106		①22.0/②18.0/③38.5④40.0⑤41.0⑥40.0⑦⑧40.5⑨-⑪41.0⑫⑬40.5⑭20.0/⑮39.2⑯40.0⑰38.9⑱39.5⑲39.0⑳-㉑39.0㉒30.6		裏表紙糊離れ	①-③で錯簡なし ⑭と⑮で錯簡なし 改修時の料紙の長さの調整のためか、文字行や行間を詰めて短く隙間をつくって伸ばす箇所あり
107		①36.0②-④39.5⑤⑥39.5⑦38.8⑧39.2⑨-⑩39.4⑫38.5⑬38.8⑭38.5⑮37.5/⑯48.5⑰48.7⑱37.2⑲2.3	一交了	虫損	①-⑮一筆、⑯-⑲一筆、⑮と⑰で錯簡なし
108		①7.0②38.5③21.4/④12.8⑤41.5⑥41.2⑦17.5⑧38.6⑨20.5⑩19.6⑪10.0⑫34.6/⑬47.3⑭-⑯48.9⑰-⑱48.6⑲14.6/⑳42.0㉑11.3/㉒48.8		虫損 一部欠失	①-③一筆 ⑮-⑲一筆 ③と④ ⑫と⑬の継目で各1行重複し 界線がずれる、補筒
109		①36.5②40.0/③37.0④40.6⑤44.3⑥29.0⑦38.8⑧39.0⑨39.2⑩37.6⑪8.9⑫⑬48.7⑭47.2/⑮43.8⑯-⑰43.5⑱9.5/㉒31.6		③大破あり	③-⑧一筆、⑨-⑫一筆、⑧と⑨は異筆だが同時期か ⑭と⑮、⑱と㉒で錯簡なし 墨界なしの箇所あり
110		①18.6②23.2③44.5④⑤45.1⑥45.3⑦⑧44.9⑨45.4⑩-⑫45.2⑬43.2⑭48.8⑮46.7⑯43.5⑰-⑱45.0⑲11.0	一交了	虫損	
111		①49.6②53.5③53.7④53.8⑤53.1⑥-⑧53.3⑩53.9⑪-⑬53.6⑰12.8	※	虫損	※一交了 又校了
112		①50.0②③53.7④53.8⑤53.6⑥-⑧53.5/⑩⑪51.3⑫⑬51.0⑭45.5	※		※一校了 又校了
113		①47.5②③51.2④-⑦51.0⑧51.2	※	虫損 巻頭にシミ	※一交了 又校了
114		①43.8②51.0③51.5④54.0⑤53.3⑥52.0⑦52.8⑧-⑩53.5⑰31.2	一交了 又校了	一部欠失	①の一部で裏打紙に江戸時代の補写、それ以外は一筆
115		①50.0②53.4③53.2④53.3⑤53.2/⑥⑦48.0⑧46.0⑨⑩48.0⑪-⑫47.8⑬47.5⑭19.8		虫損 一部欠失	①の一部では裏打紙に江戸時代の補写、それ以外は一筆
116		①44.0②47.5③48.0④47.8⑤⑥48.3⑦⑧48.5⑨48.3⑩-⑫48.5⑬⑭48.0⑮47.6⑰14.5	一交了 又校了	一部欠失	①の一部では裏打紙に江戸時代の補写

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
117		①22.5②35.5/③32.7④43.0⑤43.2⑥43.7⑦9.9/⑧4.9⑨-⑩48.1⑪49.8/⑫32.6⑬43.5⑭43.3⑮40.8 界高①②20.0③-⑦20.1⑧-⑩20.0⑪-⑫20.0			⑦と⑧、⑩と⑫で錯簡なし ③-⑦と⑩-⑫とは同筆 応永の奥書は巻末本文と墨色異なり異筆だがほぼ同時期か ③と④の継目の紙背にマークあり
118		①36.7②38.0③16.2④47.5⑤47.6⑥48.0⑦⑧50.0⑨-⑩50.2⑪⑫49.0⑬49.5⑭48.0⑮50.0⑯18.6	一校了又校了	虫損 料紙劣化	③と④で錯簡なし、①-③一筆、④以降一筆
119		①46.0②49.8③50.1④-⑥50.0⑦46.1	※	一部欠失	※一校了 又交了
120		①47.5②-⑦51.2⑧47.3⑨47.5⑩-⑬47.3⑭-⑯47.1⑰39.2	※		※一校了 又校了
121	弘化四未歳正月廿六日写之/靈嶺	②47.2			
122		①44.7②44.8③④45.7⑤45.7⑥45.4⑦45.0⑧⑨45.6⑩45.3⑪45.5⑫-⑭45.1⑮45.7⑯⑰45.4⑱45.0/⑲10.1		汚れ 紙継劣化	⑱(巻末4行と尾題)は錯簡、本来は巻第509、巻第509の当該部分は江戸時代の補写
123		①24.8②39.5③-⑩50.0/⑪45.5⑫-⑭45.3⑮⑯45.7⑰⑱45.5⑲41.2	一校了	カビ痕	①②と③は同筆、⑩と⑪は同筆
124	干時弘化二乙己歳/七月晦日 書写之/天台沙門即因印(朱文方印)	②42.0			
125	秦是里女財田氏	①48.6②-⑥52.0⑦52.2⑧52.0⑨52.3⑩-⑬52.0⑭52.2⑮51.9⑯39.0		カビ痕	
126	応永四丁丑六月晦日 覚舜	①43.2(E補写含む)②49.0③49.5④40.0/⑤7.8⑥39.5⑦⑧44.0⑨43.0⑩44.0⑪-⑬43.5⑭44.0⑮⑯43.0⑰⑱43.2⑲40.5		①汚れ	④と⑤で錯簡なし、④の左端に切断跡の半切文字あり ①の1行目は江戸時代の補写
127	仲山寺 経一部内/願主賢照/長治(二カ?)年歳次乙酉 九月十日 甲辰始之筆取僧應実	①14.4②1.6(1行)③④53.5⑤53.1⑥53.2⑦53.3⑧-⑩53.7⑪54.0⑫51.5⑬49.6⑭39.8⑮38.6⑯47.8⑰37.5	一校了	①汚れ 巻末にシミ	①と②(1行)の間に20行弱の欠落あり ②-⑧、⑩-⑱で錯簡、脱落なし「一校了」(墨色ことなる)
128	仲山寺大般若経一部/長治二年乙酉九月十日 甲辰 始奉書写矣 願主僧賢照/筆師僧舜意也	①48.8②53.5③-⑤54.0⑥53.6⑦-⑨54.0⑩53.1/⑪27.4/⑫34.1⑬53.7⑭15.8	校了	汚れ	⑱(11行)は補写
129		①43.7②46.7③-⑤47.0⑥-⑯46.9⑰46.8⑱26.1	※		途中で手がかわる ※一校了(朱) 二校了
130		①43.7②-④47.2⑤⑥47.2⑦-⑨47.0⑩⑪47.3⑫-⑭47.0⑮45.4⑯9.5	※		※一校了(朱)
131		①27.5②-④47.7⑤-⑧47.6⑨47.8⑩-⑬47.6⑭40.7			
132		①43.5②③47.5④47.7⑤47.5⑥47.8⑦⑧47.5⑨45.7⑩45.5⑪-⑬45.6⑭43.5⑮44.0⑯32.0	※	一部欠失	※一校了(朱) 又校了
133		①44.0②47.5③48.0④-⑥47.8⑦47.5⑧47.7⑨47.9⑩45.6⑪-⑬45.9⑭⑮45.6⑯20.2	※	カビ痕	※一校了(朱) 又校了
134		①43.8②-④47.5⑤47.9⑥47.7⑦-⑨45.6⑩45.9⑪⑫45.7⑬-⑮45.5⑯45.2⑰42.1		一部欠失	
135		①41.5②③47.7④47.8⑤⑥47.5⑦47.7⑧⑨47.5⑩-⑫45.5⑬46.0⑭45.8⑮⑯45.9⑰32.9	一校了(朱)	一部欠失	
136		①44.2②46.6③46.5④⑤46.6⑥-⑩46.2⑪44.0⑫-⑭46.0⑮45.6⑯5.2	※		※一校了(朱)
137		①41.9②46.0③46.0④46.5⑤⑥46.2⑦46.5⑧45.8⑨46.2⑩⑪46.0⑫45.5⑬45.8⑭45.6⑮45.9⑯47.9⑰47.2⑱31.5	※		※一校了(朱) 一校了
138		①40.0②46.2③46.5④46.2⑤45.8⑥46.4⑦46.0⑧-⑩46.2⑪45.8⑫20.0	※	裏表紙糊離れ	※一校単(朱)
139		①40.5②-④46.5③46.2④46.4⑤46.2⑥46.0⑦46.3⑧12.5	※		※一校了(朱) 又一校了
140		①39.2②-④46.5⑤-⑩46.5⑪46.0⑫46.2⑬45.6⑭45.9⑮⑯45.8⑰46.2⑱22.6	※	虫損	※一校了(朱) 又一校了
141		①45.2②-⑧47.5⑨47.8⑩-⑮48.0⑯40.1/⑰10.7			⑯本文と⑰(尾題のみ)は異筆
142		①43.5②47.4③47.7④47.5⑤47.8⑥-⑨47.5⑩47.9⑪47.8⑫48.0⑬47.9⑭⑮47.7⑯47.9⑰47.5⑱47.0⑲22.2			巻第141と同筆
143		①43.6②③47.5④47.7⑤47.7⑥47.9⑦-⑨48.1⑩47.9⑪47.7⑫⑬47.6⑭-⑯47.9⑰46.2⑱43.5	※	虫損	巻第141と同筆 ※一交了(朱) 一校了
144		①45.1②47.2③47.4④47.5⑤44.5⑥47.8⑦⑧47.9⑨⑩47.5⑪⑫47.9⑬48.0⑭47.9⑮47.7⑯47.8⑰47.5⑱24.1	※	虫損	⑤が短いのは脱行による余白の裁断のためか(行間に1行加筆、前後に錯簡なし) 巻第141と同筆 ※一交了(朱) 又一校了
145		①45.6②-⑤47.5⑥⑦45.0⑧46.5⑨46.2⑩-⑰46.5⑱46.2⑲23.9	※	カビ痕	巻第141と同筆 ※一交了(朱)、又校了
146		①45.2②-⑥47.5⑦44.6⑧46.1⑨-⑯46.5⑰47.2	※		巻第141と同筆 ※一交了(朱) 二校了
147		①45.2②③47.5④47.3⑤⑥47.5⑦45.0⑧-⑯46.3⑰46.5⑱⑲46.4⑳44.5		虫損	巻第141と同筆

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
148		①45.2②47.0③-⑦47.2⑧41.6/⑨⑩46.3⑪46.0⑫⑬46.2⑭46.4⑮⑯46.6 ⑰46.3⑱46.4⑲40.5	※		⑧と⑨で錯簡なし、⑧は改装時に少し短く切られる 巻第141と同筆 ※一校了(朱) 一校了
149		①46.2②47.6③-⑤48.0⑥47.9⑦48.2⑧48.0⑨48.2⑩47.8⑪-⑬48.0⑭47.8 ⑯44.9	※		途中までは巻第141と同筆 ※一校了(朱) 二校了
150		①43.5②47.3③47.5④47.2⑤47.8⑥47.5⑦⑧47.7⑨47.6⑩47.7⑪47.5⑫⑬ 47.9⑭-⑰47.7⑱27.1	※	一部欠失 ④と⑤で糊離れ	※一校了(朱) 又一校了
151	天承元年六月廿三日 石峯寺僧執筆覚 秀/一校了(異筆) 天応了月信士/施主友清村/徳左衛門	①42.8②③-⑯46.5⑰43.6⑱26.8H20.3/⑲41.6H20.3/⑳9.1H20.3	一校了		奥書のみの⑳は⑲(尾題含む)と異筆、⑳までの本文とは同筆カ 木箱(巻第151-第200のつまみ欠失)
152	天保十四年癸卯年六月/施主友清村/徳 左衛門/家内安全	①42.4②46.3③46.2④-⑱46.5⑳30.0	※		巻第151と同筆 ※一校了(朱)
153	家内安全/施主友清村/銀兵衛	①44.5②46.7③-⑤46.7⑥42.5⑦-⑱46.7⑲⑳46.5⑳44.5⑲45.2⑲31.8	一校了(朱)	虫損	巻第151と同筆
154	家内安全/施主友清村/茂三郎	①25.4②③38.4④⑤38.2⑥16.5/⑦29.2⑧43.8⑨2.0⑩46.6⑪44.1⑫1.6⑬ 36.3⑭9.7⑮46.5⑯46.3⑰46.5⑱41.8⑲2行4.0善男子応修⑳46.6㉑-㉓ 46.5㉒46.1㉔42.9	一校了	虫損 表紙糊離れ	⑥と⑦の継目で2字重複、⑥以前と⑦以降の欠落部分の補写とは同筆 ⑦以降は巻第151と同筆
155	如蓮自照信士/施主友清村/太三郎	①42.5②46.5③46.3④46.3⑤46.0⑥46.5⑦-⑨46.0⑩46.0⑪46.5⑫⑬46.0 ⑭⑮46.5⑯46.0⑰17.0	一校了		巻第151と同筆
156		①42.8②46.7③-⑧46.3⑨42.1⑩-⑱46.3⑲3.2			⑧と⑨は同筆
157		①16.5/②25.0③44.6④44.3⑤44.1⑥-⑱44.5⑲42.3	一校了	糊離れ	
158	先祖代々/施主友清村/宗五良	①41.0②-⑩44.7⑪45.1⑫-⑱44.8⑲44.6⑲15.6	一口口	虫損	⑫では文字の濃淡を変えてデザインする
159	家内安全/施主友清村/宗五良	①19.2/②38.3③38.6④37.3/⑤33.3⑥-⑧46.3⑨46.5⑩-⑱44.4⑲⑳46.3 ⑳46.1⑲43.7⑲47.6㉑18.0	一校了	虫損	④と⑤の継目で2字欠字(「舌身」、補簡 ⑤以降は巻第155と同筆
160	一校了(異筆)/如意寺常住	①45.1②-⑦46.5⑧45.0⑨47.2⑩⑪46.5⑫47.5⑬⑭47.0/⑮45.0⑯30.1	一校了		
161	天保十四癸卯年六月/施主友清村/藤右 衛門/台峯理観信士/台峯理覚信女	①45.8②③-⑥48.2⑦47.5⑧-⑱48.2⑲48.0⑲-⑳48.2⑲3.7	一校了		
162	先祖代々/施主友清村/藤兵衛	①45.6②-⑱48.0⑲48.2⑲-⑳48.0⑲27.8			
163	先祖代々/施主友清村/藤右衛門	①44.9②40.4③15.5/④46.5⑤48.4⑥-⑧48.3⑨48.5⑩-⑱48.1⑲47.7⑲ 12.5	一校了		④以降は巻第164と同筆カ
164	家内安全/施主友清村/藤右衛門	①45.7②47.7③-⑥48.3⑦48.0⑧-⑱48.2⑲47.8⑲17.0	一校了		
165	国家安全/施主友清村/藤右衛門	①45.0②47.8③48.0④-⑦48.3⑧-⑱48.6⑲48.7⑲-⑳48.0⑲48.2⑲39.5		①汚れ少し	
166	家内安全/家内安全/施主友清村/与左 衛門/同/安太郎	①44.0②47.8③47.9④48.1⑤-⑱48.2⑲7.2	一校了		
167	家内安全/施主友清村/嘉兵衛	①44.5②48.4③48.2④48.5⑤48.2⑥27.5/⑦33.2/⑧20.0⑨48.6⑩47.8⑪ 47.9⑫48.3⑬48.1⑭48.0⑮48.4⑯47.8⑰29.5/⑱41.5/⑲24.0⑳8.9奥書	一校了		①-⑥⑧-⑱⑳は一筆、⑥と⑦と⑧で錯簡なし
168	先祖代々/施主友清村/岩二良/先祖 代々/同/源右衛門	①44.3②48.4③48.5④-⑩48.5⑪48.7⑫⑬48.3⑭47.7⑮48.2⑯47.5⑰44.4	一校了	カビ痕	
169	大法理覚信士/施主友清村/源兵衛門	①44.0②48.0③48.3④-⑥47.9⑦-⑨46.4⑩-⑱48.2⑲16.5	一校了		
170	先祖代々/施主友清村/与左衛門	①43.8②48.1③-⑦48.2⑧48.0⑨-⑱48.2⑲47.6⑲14.8	一校了	虫損 カビ痕 巻頭シミ	

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
171	隻屋定謙信士/施主友清村/喜右衛門	①20.9H20.4②33.7/③52.9H20.3④55.4/⑤54.6/⑥46.2H20.2⑦47.8⑧48.0⑨48.1⑩48.4⑪47.8⑫38.1/⑬28.7⑭39.5⑮39.3⑯23.2⑰17.7⑱34.5/⑲23.4⑳29.3		虫損 カビ痕 一部欠失 糊離れ	①②は補写(②欄外に「空」を書き加える) ③-⑫⑰-⑲一筆、⑬-⑱一筆 ②と③、⑤と⑥、⑬と⑭と⑰、⑱と⑲で錯簡なし
172	先祖代々/施主友清村/喜右衛門	①21.2②1.5③36.1④14.9/⑤32.8⑥⑦54.8⑧43.8/⑨42.5⑩43.0⑪39.5/⑫35.4⑬49.3⑭49.2⑮49.4⑯49.1⑰47.8/⑱21.0⑲43.6⑳43.5㉑43.7㉒21.0		表紙糊離れ	①-④一筆、⑩-㉑一筆 ①-⑤、⑧と⑨、⑪と⑫で錯簡なし
173	先祖代々/施主友清村/宗兵衛	①-③54.9④55.7⑤55.0/⑥46.6⑦48.2⑧48.8⑨-⑪48.5⑫-⑰46.0⑱43.7	一交了		⑤と⑥は同筆、錯簡なし
174	先祖代々/施主友清村/善治良	①51.0②54.6③54.7④54.6⑤50.1⑥⑦850.7/⑧14.4⑨40.0⑩43.3⑪⑬43.5⑭14.7⑮⑯43.9/⑰40.2⑱45.6⑲21.3	一交了		①-④と⑤-⑧と⑰-⑱は同筆カ
175	先祖代々/施主友清村/義兵衛	①51.8②54.2③54.5④54.7/⑤42.0⑥44.0⑦44.3⑧43.8⑨⑩⑪28.8/⑫48.6⑬48.3⑭48.5⑮48.6⑯47.1⑰54.4⑱32.2	一交了		⑤と⑥、⑪と⑫で錯簡なし
176	家内安全/家内安全/施主友清村/猶治良/同/作兵衛	①50.6②③④54.5⑤54.9⑥46.1⑦46.4⑧46.5⑨-⑰45.4⑱44.5⑲46.5⑳4.2	※	虫損	①-⑤と⑥以降とは同筆カ、界線のずれあり ※巻末に裁断、文字痕あり、一交了カ
177	家内安全/施主友清村/善治良	①48.9②54.2③54.5④54.6⑤53.5⑥46.0⑦48.3⑧-⑱48.2⑲46.5⑳48.5⑲48.3⑳48.5⑲45.8⑲35.2	一交了	虫損 カビ痕	
178	先祖代々/施主友清村/幸左衛門/常三郎/義三良/栄蔵	①49.2②54.7③54.5④54.9⑤⑥⑦46.5⑧46.4⑨46.8⑩-⑲46.5⑲46.7⑲42.2⑳52.5㉑⑳54.2㉒9.4	一交了	虫損 巻頭シミ	
179	先祖代々/施主友清村/佐右衛門	①46.5②③50.9④50.5⑤49.4/⑥44.3⑦46.0⑧46.3⑨46.5⑩-⑲46.3⑲46.5⑲46.3⑲42.8⑲33.8⑲44.0/⑳15.3⑲54.6㉑53.5㉒52.0㉓11.9	一交了		①-⑤一筆、⑩-㉑一筆、⑲と⑳で錯簡なし
180	先祖代々/施主友清村/銀兵衛	①46.7②42.6③50.4④50.7⑤49.2/⑥44.5⑦46.1⑧46.6⑨46.8⑩46.6⑪46.9⑫46.5⑬46.7⑭46.8⑮42.8/⑯51.8⑰54.4⑱47.5	一交了	虫損	
181		①40.0②41.2③40.9/④40.9⑤41.4⑥⑦41.2⑧40.8⑨41.2⑩41.5⑪-⑲41.0⑳41.3㉑40.5㉒19.2			③と④の継目で③の文字左端が切れる
182		①9.0②41.1③④41.3⑤-⑰41.5/⑱24.7⑲40.1⑳40.3			①-⑱は巻第181の①-③と同筆カ ⑱以降に墨界なしの箇所あり
183		①40.0②③41.2④⑤41.4⑥40.4⑦⑧41.0⑨41.2⑩40.6⑪⑫41.4⑬40.7⑭41.2⑮40.6⑯⑰41.0⑱39.9		虫損	巻第181と同筆カ
184		①35.9②41.3③41.2④41.7⑤-⑧41.2⑨41.4⑩40.6⑪41.0⑫-⑰41.4⑱22.0		虫損	巻第181と同筆カ
185		①32.3②41.2③41.0④-⑰41.1⑱41.5⑲40.0⑳41.3㉑20.14.8			巻第181と同筆カ
186		①34.0②41.0③-⑱40.3⑲40.3/⑳17.5⑳2.2㉑2.2㉒36.0㉓清浄与㉔20.2分无別㉕19.7㉖安忍㉗14.0羅蜜多/㉘25.9			巻第181と同筆カ ⑱と⑲は紙色異なるが継目に文字のり、⑱-㉘は一筆だが料紙細かく継がれる
187		①12.5/②39.7③40.5④40.4⑤40.7⑥-⑱40.4⑲16.3⑳22.6㉑40.3㉒40.8㉓40.5⑳40.2㉔38.5㉕20.1		虫損 一部欠失	②以降は巻第181と同筆カ 継目の文字のり、文字の部分裁断少なくない
188		①37.6②40.4③40.6④-⑱40.4㉑33.7			巻第181と同筆カ
189		①33.7②40.8③40.6④-⑱40.0⑲34.2		表紙糊離れ	巻第181と同筆カ
190		①37.3/②40.7③④40.4⑤39.7⑥40.7⑦-⑱40.7⑲37.0⑳27.8㉑40.2㉒31.5⑳40.5⑳38.5⑳-⑲40.5⑲40.0			②以降は巻第181と同筆カ
191	翫王院/即眞	①19.7②41.6③41.7④21.6		表紙・①糊離れ	未表具の断簡(5行「者清浄何以故是命者清浄與内空清…」)あり
192		①1.5/②44.7③48.8④48.5⑤-⑲48.9⑲47.2⑲48.6⑲47.3⑲48.8⑲48.7⑲46.8			部分的な補写と書込み多数
193		①48.0②51.1③48.5④51.4⑤-⑱51.2⑲46.5⑲37.2	一交了		界線のずれ大 部分的な補写多数
194		①47.1②51.3③51.8④51.0⑤52.0⑥51.3⑦⑧51.5⑨49.2/⑩30.6⑪39.0⑫2.0⑬43.0⑭⑮43.5⑯43.0⑰43.2⑱22.2/⑲31.7⑳20.7㉑8.3	一交了		
195		①46.7②17.8/③2行3.8/④32.5⑤-⑷50.8⑧51.2⑨50.7⑩48.8⑪51.2⑫⑬51.4⑭48.0⑮-⑰51.7⑱43.8⑲4.6/㉑41.2			③の3行は補簡カ、③と㉑とは別筆
196		①48.4②50.3③49.8④50.3⑤-⑧50.8⑨46.8/⑩48.9⑪47.0/⑫47.8⑬32.0⑭48.8⑮48.5⑯48.7⑰44.5	一交了		⑨と⑩は同筆、⑪と⑫は異筆、錯簡なし ⑱の左端に余白あり、⑱と⑰で錯簡なし
197		①46.3②48.3③-⑥48.8⑦48.5⑧48.8⑨48.4⑩8.6⑪36.5⑫46.2⑬46.4⑭-⑯45.5⑰42.2/⑱9.5⑲7.6			⑩は前後と同筆、⑱(5行)は⑰⑱と異筆、錯簡なし、補簡カ

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
198		①46.2②③48.7④48.5⑤49.2⑥48.7⑦21.2⑧9.0⑨18.0⑩32.6/⑪30.2⑫1行2.0⑬43.2⑭40.4⑮1行2.3⑯⑰43.5⑱41.6⑲1.7 1行⑳39.2㉑-㉒43.5⑳10.7/㉓44.5㉔22.5	※		①-⑩、㉓㉔は巻第197の⑩と同筆カ ⑩と⑪の紙継で1行重複 改装時、文字が折目に重ならないよう行間を詰める ※㉓と㉔の継目の裏打紙に「一交畢」の墨書あり(転用力)
199		①47.0②50.8③50.5④50.3⑤50.8⑥-⑧49.2⑨48.2⑩42.5⑪48.0⑫36.5⑬47.6⑭⑮49.2⑯⑰48.6⑱10.0	※		※巻末に□□□(裁断 文字痕あり)
200		①37.7②38.8③8.2/④37.7⑤-⑦37.4⑧38.5⑨-⑲38.7⑳39.2		表紙糊離れ	木箱(巻第151-第200)つまみ欠失
201	播州/満勝寺常住〓〓〓聖/文和二年癸巳八月中奉修理高男寺院主/阿闍梨慶算授小財於六百軸結値遇於/慈尊朝 外題右筆沙門覚海/六十四歳	①33.0②34.6③34.8④35.6⑤29.5/⑥⑦41.1⑧⑨41.4⑩⑪40.8⑫40.6⑬40.4⑭-⑰41.0⑱41.2⑲41.4⑳41.0㉑25.8		虫損	①-⑤墨界なし 巻第201-第210の平安時代書写部分は同筆カ
202		①20.2②36.0/③32.5④40.9⑤41.0⑥40.6⑦-⑩40.5⑪⑫40.7⑬⑭40.8⑮40.8⑯41.0⑰40.8⑱40.6⑳17.8			
203		①38.0②8.7③30.3④41.1⑤41.2⑥41.1⑦37.3⑧39.0⑨40.8⑩41.0⑪⑫40.6⑬41.0⑭40.8⑮38.0⑯1.9(1行のみ)⑰40.8⑱41.0⑲40.9⑳41.0㉑39.3㉒12.1		表紙・②と③の紙継で糊離れ	
204	弘化参丙午載季穠中旬六日/菅宗栄美写之	①-③31.2④42.2			
205		①38.0②41.2③41.0④41.4⑤41.5⑥41.5⑦-⑩41.4⑪41.5⑫41.2⑬⑭41.4⑮40.8⑯⑰40.8⑱18.0⑲⑳41.0㉑35.5			②と③の継目、改装時に調整のため少し裁断
206		①40.0②41.0③41.4④41.7⑤41.5⑥41.4⑦41.0⑧41.9⑨41.4⑩⑪41.5⑫41.5⑬41.0⑭41.3⑮38.4⑯3.2⑰40.8⑱40.5⑲22.3⑳41.0㉑31.2			
207		①38.4②41.5③④41.3⑤41.8⑥41.4⑦41.8⑧⑨41.0⑩⑪41.3⑫41.5⑬-⑰41.2⑱-⑳41.5㉑41.0㉒37.1⑳15.6			欄外に欠行の書込み2行あり 欠失の一部、江戸時代の補写
208		①39.2②41.5③41.4④41.6⑤⑥41.4⑦-⑩41.2⑪-⑬41.3⑭41.5⑮41.0⑯⑰41.2⑱41.5⑲33.2			欠失の一部、江戸時代の補写
209		①38.0②41.0③41.3④⑤41.7⑥41.5⑦41.7⑧41.4⑨41.8⑩41.6⑪41.5⑫41.3⑬18.5⑭15.6⑮41.1⑯41.0⑰-⑲41.5⑳34.3		裏表紙糊離れ	欠失の一部、江戸時代の補写
210	播州賀東郡満勝寺〓〓〓聖安禅坊祐善/文明元年十月廿日買 生年四十四歳也	①36.8②-⑨40.9⑩38.3⑪41.2⑫-⑱40.9⑲14.5/⑳32.0㉑28.1		虫損 一部欠失	④の改行余白に「万勝寺」の書込 ⑩と⑱は同筆だが、界高異なる ⑲最終行「無断故有」とすべきを断を新と誤写 本文中に異筆で「満勝寺常住」
211		①38.2②41.2③41.4④41.0⑤40.8⑥40.6⑦-⑩40.3⑪40.6⑫-⑰41.0⑱40.5⑲-㉑41.0㉒41.3㉓12.5		裏表紙糊離れ ⑩一部欠失	巻第211-第220の平安時代書写部分は同筆カ 巻第201と同筆カ
212		①38.0②41.0③41.3④41.5⑤-⑦41.0⑧41.5⑨41.0⑩⑪41.2⑫-⑱41.1⑲24.1⑳41.5㉑41.0㉒37.0		虫損 ①と②で一部欠失	⑱と⑲で錯簡なし
213		①38.3②41.3③41.5④41.6⑤40.8⑥-⑰41.1⑱41.5⑲41.0⑳14.5			
214		①37.5②41.3③41.7④41.4⑤-⑦41.0⑧40.8⑱40.0⑳19.1			
215		①37.5②-④41.4⑤41.1⑥⑦41.4⑧41.2⑨⑩41.1⑪⑫41.5⑬41.1⑭⑮41.5⑯41.3⑰41.6⑱36.3			
216		①39.5②41.2③④41.5⑤-⑨41.2⑩⑪41.4⑫⑬41.2⑭⑮41.0⑯⑰41.2⑱27.5			
217		①39.3②41.5③41.6④41.7⑤41.5⑥-⑱41.3⑲40.5⑳25.1			
218		①38.6②40.3③41.1④41.3⑤41.4⑥41.2⑦⑧41.0⑨⑩41.2⑪41.5⑫-⑱41.0⑲40.8⑳18.5		表紙糊離れ	
219		①32.0②41.0③④41.1⑤41.0⑥40.7⑦⑧41.0⑨39.6⑩-⑬41.0⑭⑰40.8⑱41.0⑲40.7⑳⑴40.2/㉑25.7			②と③の継目で文字が隠れる ⑤と⑥の継目で文字切れる
220		①30.8②41.2③41.5④41.5⑤41.0⑥41.5⑦-⑨41.3⑩40.5⑪41.0⑫40.8⑬40.5⑭40.2⑮⑯39.5⑰40.2⑱39.2⑲16.0			
221		①50.0②52.0③49.5④55.0/⑤-⑬52.0⑱22.5		③と④紙継糊離れ	
222		①49.5(②52.4③52.5④52.7⑤52.7⑥54.0⑦52.0⑧51.6⑨52.8⑩-⑬52.5⑭46.8		一部欠失	①一部(2.2センチ)江戸時代の補写
223		①44.1②-⑤47.5⑥47.2⑦47.0⑧46.8⑨46.2⑩47.2⑪47.5⑫47.8⑬47.6⑭⑮46.8⑯26.7		一部欠失	
224		②42.2			尾題の書写なし

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
225		①43.8②47.5③47.3④45.1⑤46.6⑥47.2⑦⑧47.5⑨40.4		一部欠失	
226		①50.0②51.8③51.9④⑤52.0⑥⑦51.8⑧⑨51.5⑩47.2		一部欠失	
227		①37.1②④39.3⑤39.0⑥38.0⑦41.0⑧39.5⑨④39.0⑩25.5⑪5.1⑫12.5 ⑬39.2⑭38.2⑮19.8⑯39.2⑰39.4⑱39.0⑲38.5⑳10.6		虫損 一部欠失 料紙劣化	⑮と⑰は同筆で⑱(3行)とは異筆
228		①41.1②51.7③51.9④50.8⑤⑥⑦52.0⑧41.7⑨51.3⑩6.5		虫損	巻第226と同筆カ ⑬と⑭の紙継は不自然だが錯簡なし
229	嘉永二歳次己酉閏四月念四日/沙門貫泰謹啓	②42.2			⑤から手が変わる
230		①49.7②51.4③51.0④51.4⑤51.5⑥⑦51.0⑧48.2⑨2.2⑩50.6⑪3.8			途中で2回手が変わる(⑩の途中で手が変わる)
231		①53.5/②34.5③④⑤46.2⑥⑦46.1⑧45.9⑨12.5		虫損	
232		①39.6②24.0/③25.7④45.8⑤46.3⑥⑦46.2⑧45.8⑨⑩46.8⑪46.5⑫⑬46.3⑭46.5⑮46.0⑯46.2⑰30.8			
233		/④33.7⑤⑦46.3⑧⑨46.5⑩46.1⑪46.8⑫47.0⑬⑭46.5⑮⑯46.5⑰27.2		裏表紙糊離れ	
234		①42.2②③46.5④47.0⑤46.3⑥⑦46.5⑧⑨46.2⑩⑪46.5⑫⑬46.3⑭⑮46.1⑯10.5/⑰18.3		虫損 料紙劣化	①⑧一筆、ただし⑤の初めの6行は異筆、錯簡なし ⑯は⑰までと異筆、⑯の1行目の文字の右端の一部は⑰との継目による(補写)、錯簡なし
235		②42.0		糊離れ	尾題なし
236		①44.5②47.0③47.2④47.0⑤47.2⑥⑦47.3⑧⑨47.7⑩⑪47.3⑫47.0⑬27.0		虫損	
237		/③23.5④⑦46.8⑧⑨46.7⑩⑪47.0⑫46.6⑬46.8⑭47.0⑮⑯46.5⑰39.4⑱5.8⑲43.0⑳45.8㉑16.0			
238		①42.5②43.5③48.8④46.5⑤46.6⑥⑦46.4⑧46.5⑨⑩46.0⑪⑫46.5⑬⑭46.0⑮45.8⑯12.5			
239		①4.7/②38.0/③④46.9⑤⑥47.2⑦⑧47.5⑨47.7⑩⑪47.5⑫47.2⑬15.2		裏表紙糊離れ	
240		①8.7/②40.4③49.2④2.5⑤51.5⑥50.8⑦53.3⑧⑨53.5⑩⑪54.0⑫54.2⑬40.8		糊離れ	③と④で糊離れ、錯簡なし(③と④で「清」重複)
241	明徳五年甲丑三月廿日 覚舜	①40.2②43.1③43.3④42.4⑤⑥⑦43.0⑧24.8			
242		①15.6②③43.0④29.7/⑤9.4⑥⑦46.3⑧⑨46.6⑩42.5			④と⑤で錯簡なし
243	応永四年丁丑七月廿八日 覚舜書之	①28.0/②17.0③④45.8⑤25.6⑥19.6⑦45.9⑧⑨45.8⑩⑪48.4⑫44.4/⑬43.3⑭43.2⑮31.7			表紙に巻第244の題箋を誤って貼る ①と②で錯簡なし ②⑦は一筆カ
244		①3.7/②50.0③④55.6⑤⑥55.6⑦⑧55.9⑨⑩56.0⑪32.8		虫損	表紙に巻第243の題箋を誤って貼る
245	于時弘化武乙巳年/八月四日/天台沙門即因印(朱文方印)/書写之	②42.3			
246		①44.2②21.2③44.0④43.7⑤43.5⑥7.1/⑦36.4⑧47.7⑨18.3⑩6.3⑪26.8⑫47.6⑬34.6⑭11.6⑮23.2⑯17.2⑰47.6⑱47.5⑲4.9		巻頭一部欠失	⑥と⑦で錯簡なし ⑨⑩は一筆 ②と③の紙継に文字のる
247		①6.5②17.0/③17.4④2.9⑤47.3⑥⑦47.2⑧⑨47.3⑩42.6⑪20.9		糊離れ	③と④で糊離れ
248		①27.7/②18.4③48.1④47.6⑤48.4⑥48.5⑦48.4⑧48.0⑨⑩⑪49.0⑫48.2⑬48.9⑭48.5⑮47.5⑯48.0⑰25.7		②一部欠失	
249		①44.4②③46.7④46.5⑤46.8⑥⑦47.0⑧47.2⑨⑩47.0⑪46.7⑫29.0			
250		①35.0②37.5③39.2④39.0⑤⑥39.3⑦39.0⑧⑨39.2⑩39.5⑪⑫39.2⑬38.8		虫損 糊離れ ②一部欠失 料紙劣化	独特の字体
251	□	①29.3②2.3③④43.2⑤⑥42.7⑦⑧43.0⑨41.0⑩20.8⑪41.1⑫43.0⑬0.7⑭40.0⑮43.1⑯42.8⑰43.0⑱43.2⑲43.1⑳43.6㉑5.6㉒42.5			木箱(巻第251-第300)の蓋の棧欠失 本文中に異筆で「満勝寺常住」
252	満勝寺常住	①46.5②48.1③48.4④48.6⑤⑥48.5⑦⑧48.2⑨36.7			
253		①46.3②48.4③④48.2⑤8.3			

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
254		①46.8②-④48.3⑤48.0⑥48.3⑦⑧48.7⑨⑩48.3⑪48.8⑫45.2⑬3.3⑭⑮48.3⑯48.0⑰47.6		虫損	
255		①27.0②42.7③35.6/④46.2⑤-⑩47.6⑪47.6⑫47.8⑬47.5⑭46.2⑮47.0⑰40.9			
256		①46.2②46.5③47.8④⑤47.5⑥47.6⑦-⑨47.8⑩47.2⑪47.7⑫47.0⑬46.5⑭47.5⑮43.5		シミ	
257	明徳伍年四月十一日 右筆助書祐玄/ 播州万勝寺 常住	①30.3②42.8③42.7④-⑧43.0⑨40.6⑩2.0<1行>⑪⑫43.0⑬43.4⑭43.0⑮⑯43.2⑰-⑱43.0⑲29.0		虫損 巻頭一部欠失	
258	為法界衆生平等利益 市カフミ口祐/勸進日富/一交了	①50.9②54.2③54.1④54.6⑤54.5⑥-⑨54.1⑩54.5/⑪51.8⑫-⑬52.3⑭4.2	一交了		⑯は「一交了」のみ
259		①31.3/②38.8③-⑥39.0⑦38.7⑧38.3⑨38.9⑩39.2⑪-⑬38.7⑭38.8⑮39.0⑯-⑲39.1⑳39.2㉑39.0㉒38.6㉓34.3		糊離れ	
260	播州万勝寺常住	①45.9②48.4③48.6④48.5⑤-⑩48.5⑪48.2⑫48.5⑬37.7		カビ痕 一部欠失 巻頭シミ	
261		①53.8②③55.6④55.5⑤⑥54.5⑦55.0⑧55.5⑨-⑬55.2⑭55.5⑮31.8		巻頭シミ	
262		①37.1/②8.8③45.9④-⑯46.2⑰44.1			①と②は異筆、界高異なり、錯簡はなし
263		①51.6②55.4③④55.6⑤55.4⑥-⑯55.5⑰31.6			
264		①51.6②③55.1④-⑯55.2⑰17.5			
265		①43.5②-④48.3⑤48.7⑥⑦48.4⑧47.8⑨-⑯48.3⑰15.4			紙背にマークあり
266		①51.5②55.0③55.5④55.0⑤54.8⑥⑦54.8⑧⑨55.3⑩54.8⑪-⑯55.3⑰45.9			
267		①51.5②55.6③④56.0⑤⑥55.6⑦55.9⑧-⑯55.6⑰40.4			
268		①54.0②③55.6④55.8⑤55.5⑥-⑧55.8⑨53.2⑩2.0(1行)⑪⑫55.5⑬52.5⑭2.0(1行)⑮55.3⑯55.5⑰55.2⑱11.6			
269		①51.2②55.3③55.7④55.5⑤55.2⑥-⑧55.5⑨⑩55.2⑪55.5⑫⑬55.2⑭55.5⑮55.2⑯31.8			
270		①45.0②③48.5④48.1⑤48.7⑥48.4⑦48.6⑧⑨48.2⑩-⑯48.6⑰48.0⑱17.2			
271		①37.2②38.5③39.0④39.1⑤38.8⑥38.3⑦39.2⑧38.8⑨25.5⑩9.8⑪-⑰38.6⑱39.0⑲38.3⑳2.8			
272		①43.7②47.1③-⑤47.4⑥47.4⑦-⑯47.1⑰45.3			
273		①42.3/②13.5③54.2④54.0⑤⑥53.8⑦-⑨53.8⑩-⑬54.0⑭53.5⑮50.5			①と②で錯簡なし
274		①52.0②53.5③53.6④53.5⑤⑥53.6⑦53.9⑧-⑯53.6⑰8.5			巻第273②以降と同筆
275		①35.2②54.0③54.1④54.3⑤54.0⑥54.5⑦54.1⑧53.6⑨-⑯54.1⑰53.8⑱54.0⑲24.0			
276	弘化三丙午年霜月中旬/比金山如意寺/ 圓性謹書之 役	①32.7②17.2③-⑤41.6 ㊟41.8			
277		①19.1②42.5/③27.6④44.4⑤⑥44.8⑦44.7⑧-⑯44.5⑰46.0⑱10.6/⑲19.1/⑳16.0㉑46.5㉒46.3㉓44.9/㉔43.2㉕20.1/㉖47.3㉗47.1㉘10.0			③-⑬と⑮-⑰は同筆、⑱-㉓とは異筆 ⑱と㉕⑲は同筆、①②とは異筆 行間に欠行の書き入れ多し(⑬と⑱の紙継で⑲の料紙の左端に1行小さく書き足す) ②と③、⑬と⑱と⑮、⑲と㉕で錯簡なし 継目でない紙背にマークあり
278	応永四丁双七月十八日 覚舜	①18.7H20.0/②23.9H19.1③44.1④44.5⑤44.0⑥44.1⑦45.0⑧44.6⑨43.0/⑩42.8H20.2⑪42.6⑫43.3⑬43.0⑭43.1⑮42.7⑯43.0⑰40.5			補写の①は②の右端の1行を糊代として継ぐ(捲れて②の文字が一部見える)、①と②で欠字ないよう①の一行の文字数を調整する ②-⑨一筆 ⑩-⑰は一筆で①とは異筆
279		①42.4②42.7③10.8/④52.0⑤53.2⑥53.0⑦53.2⑧-⑬53.2⑭52.5			
280		①50.3②52.5③52.3④52.6⑤52.0⑥52.6⑦52.3⑧34.1⑨53.5⑩53.2⑪54.5⑫54.0⑬54.7⑭48.5		虫損 料紙劣化	巻第279と同筆
281	龍朔元年 月并日於玉花寺玉花殿三蔵/法師玄奘奉 詔訳/文明元年買/勸進聖安禪坊祐善	①45.8②51.1③50.8④510⑤32.6⑥17.0⑦-⑨51.5⑩50.7⑪-⑬51.5⑭51.3⑮⑯51.5⑰-⑱51.2⑲33.6			霰巻カ、玉花寺は長安の北方の玉華宮内にある玉華寺、「龍朔元年…詔訳」は本文と同筆 「文明元年買…」は追筆



巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
282		①44.2②48.5③44.8④48.7⑤47.8⑥48.5⑦48.0⑧48.7⑨48.9⑩48.9⑪45.0⑫41.2⑬43.6⑭44.0⑮45.0⑯43.0⑰44.2⑱44.9⑲36.5			⑩と⑪は同筆
283		①42.0②45.5③45.3④49.4⑤45.5⑥44.0⑦43.0⑧42.8⑨12.8⑩13.5⑪44.2⑫16.2⑬12.6⑭14.1⑮44.3⑯33.6⑰13.4⑱42.8⑲41.0⑳39.5㉑45.0㉒39.8			⑨と⑩、⑬と⑭、⑰と⑱と⑲、⑳と㉑、㉒と㉓で錯簡なし
284		①40.8②2.1③47.1④47.4⑤47.8⑥47.7⑦47.5⑧47.5⑨48.0⑩47.6⑪42.5⑫4.5⑬47.5⑭47.9⑮47.6⑯48.0⑰47.5⑱47.5⑲47.8⑳45.1			①と②と③で錯簡なし
285		①42.5②46.8③47.0④46.8⑤47.0⑥46.7⑦46.5⑧46.8⑨47.0⑩47.1⑪46.8⑫47.3⑬46.8⑭46.6⑮46.8			
286	此手次代ハ藤田伊左衛門と仕候	①28.5②39.5③19.4④49.0⑤49.2⑥47.9⑦49.5⑧49.0⑨49.0⑩49.4⑪49.2⑫35.1		カビ痕 一部欠失 ④以降シミ	巻第286から第290までの平安時代末期～鎌倉時代前期書写部分は一筆(途中に別筆、墨界なしの箇所あり) ③の最後と④の最初で「是」重複
287		①44.8②49.0③48.8④48.6⑤48.6⑥48.4⑦48.4⑧48.5⑨48.7⑩48.9⑪48.5⑫40.3			
288		①41.0②45.0③44.8④44.8⑤45.2⑥45.5⑦45.3⑧45.5⑨45.5⑩45.5⑪47.1⑫32.2			⑩以前と⑪以降は同筆
289	維時嘉永三庚戌年二月/永野弘孝歛書写之	①15.0 ②40.0			首題・尾題に「律」と記載あり
290		①41.0②2.0(1行)③47.6④48.0⑤48.2⑥48.0⑦47.5⑧48.0⑨16.5			
291		①52.0②53.9③53.8④54.4⑤54.2⑥54.0⑦54.0⑧54.5⑨54.8⑩54.4⑪52.1		シミ	
292		①44.0②48.2③48.6④45.1⑤42.2			
293		①46.5②52.0③52.2④54.6⑤54.2⑥54.6⑦54.6⑧54.6⑨23.6			
294		①39.2②41.6③41.8 ④41.8⑤16.0			
295		①45.6②47.1③48.1④48.1⑤47.7⑥47.8⑦47.8⑧47.5⑨47.5⑩47.6⑪47.8⑫47.5⑬47.8⑭18.3		シミ 一部欠失	
296		①45.1②48.8③48.5④48.5⑤48.8⑥48.4⑦48.4⑧48.9⑨48.6⑩10.6			
297		①21.6②25.0③45.1④52.8⑤52.8⑥53.2⑦52.9⑧52.9⑨52.5⑩30.8			①と②で錯簡なし
298		①45.0②46.6③46.7④46.3⑤46.9⑥47.0⑦42.5⑧46.9⑨38.8⑩39.5⑪46.9⑫46.7⑬46.2⑭45.0			①の最終行の文字左端が②で隠れる 錯簡なし
299		①51.1②54.5③54.8④50.9⑤50.3⑥50.5⑦50.8⑧49.0⑨50.9⑩50.6⑪50.5⑫45.0⑬50.2⑭17.5			③と④で錯簡なし
300		①32.2②37.8③37.3④37.8⑤38.0⑥38.0⑦37.8⑧38.3⑨38.5⑩38.5⑪37.8⑫38.2⑬38.1⑭39.2⑮38.1⑯40.3⑰40.0⑱39.6⑲26.5		⑬と⑭の継目糊離れ 料紙劣化	
301		①37.1②13.5③34.4④45.2⑤44.8⑥45.3⑦45.3⑧45.7⑨45.6⑩35.5		虫損 表紙糊離れ	①と②は同筆、②と③の紙継で「四」が重複、補筒 木箱(巻第301-第350)蓋の上の棧欠失
302		①46.1②48.7③48.5④48.9⑤48.7⑥49.0⑦21.9			
303		①51.3②55.3③55.6④55.6⑤55.6⑥55.0⑦54.0⑧55.2⑨55.2⑩55.4⑪51.3		①と②で糊離	
304	正因房/書之	②41.8			尾題に「調」と記載あり
305		①44.5②48.3③48.8④49.0⑤49.6⑥49.5⑦48.9⑧48.9⑨49.2⑩28.2			①と②は継目で一行程の余白あり、同筆、錯簡なし
306		①25.9②38.2③37.0④2.7⑤49.4⑥50.8		虫損 料紙劣化	③と④(1行)は異筆、「浄」が③と④で重複、補筒 ④と⑤は同筆で「法」の文字が④と⑤で重複
307		①40.4②36.0③38.3④38.7⑤38.8⑥38.8⑦37.3⑧36.1⑨41.0⑩44.0⑪45.2⑫45.7⑬45.5⑭45.3⑮44.3⑯45.3⑰32.6		カビ痕	⑫と⑬は異筆、⑬と⑭は同筆 墨界なしの箇所あり
308		①35.0②37.3③21.1④48.7⑤49.0⑥49.0⑦47.7⑧48.0⑨44.5		巻頭一部欠失	
309		①35.7②38.1③38.2④38.4⑤38.4⑥38.7⑦38.8⑧38.5⑨36.2⑩40.1⑪49.4⑫49.1⑬49.5⑭11.0			⑫までと⑬以降は異筆、⑫と⑬で錯簡なし、⑫以前と巻第308は同筆力
310	天養二年歳次乙丑三月十三日播万国三木郡常陸寺書/勸進聖人 高男寺住僧聖寂 結録僧 賢光/為現世安穩後生善處奉助成耳	①49.2②52.7③53.2④53.4⑤51.9⑥48.8⑦48.0⑧48.0⑨48.4⑩48.3⑪48.1⑫48.3⑬48.0⑭48.1⑮48.1⑯48.4⑰22.0		虫損 ①と②・裏表紙糊離れ	⑤と⑥で錯簡なし

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
311	維時嘉永元年戊申十二月/永野弘孝欽書写之	②41.5			巻題・尾題に「陽」と記載あり
312		①50.5②55.3③44.0④49.0⑤48.9⑥-⑦49.0⑧49.4⑨49.0⑩47.4⑪7.1			③に朱点あり ③と④では界線のずれ、錯簡なし
313		①48.7②47.2③47.5④-⑤47.5⑥3.7			
314	書写主 東本町 大屋久兵衛/西本町 紙屋荘兵衛/施主 紙屋荘兵衛	②41.9			首題・尾題に「陽」と記載あり
315	書写主 東本町 大屋利兵衛/施主 西本町 紙屋荘兵衛	①33.0②③33.4⑤-⑥42.0⑦20.0			首題・尾題に「陽」と記載あり
316	書写主 西本町 紙屋荘兵衛/施主 同人	①33.6②41.9③41.9⑤41.6⑥41.8⑦41.3⑧4.7⑨17.8⑩29.7⑪19.9			⑩⑪は古色の料紙 ⑩と⑪の継目に文字のる ⑩の界高は前後と異なる 底本の柱題あり 首題・尾題に「陽」と記載あり
317	書写生 西本町 紙屋荘兵衛/施主 同家	①33.0②42.1③41.5④22.3			底本の柱題あり 表紙の題箋に「陽巻」 首題・尾題に「陽」と記載あり
318	書写生 西本町 紙屋荘兵衛/施主 同人	②-④41.3⑤41.7			底本の柱題あり 首題・尾題に「陽」と記載あり
319	書写生 西本町 紙屋荘兵衛/施主 同家	②41.8 ⑦41.3⑧40.4⑨34.4⑩1.4			⑪⑫は古色の料紙 首題・尾題に「陽」と記載あり
320	為女船木氏尊壺二人同三良尊壺成仏	①51.5②③55.5④49.0⑤47.2⑥46.9⑦47.1⑧⑨47.0⑩47.4⑪-⑫47.1⑬46.5⑭47.1⑮46.9⑯46.8⑰46.8⑱45.3⑲11.3			
321		①42.0②47.0③47.3④47.1⑤-⑥47.3⑦8.2		汚れ	
322		①41.7②44.6③45.5④-⑤45.3⑥45.0⑦-⑧45.4⑨-⑩45.0⑪-⑫45.2⑬21.0		汚れ	
323		①11.3②38.0③21.6④30.5⑤38.2⑥37.6⑦38.0⑧38.3⑨39.0⑩39.1⑪39.2⑫35.6⑬40.0⑭45.7⑮45.6⑯45.7⑰44.1⑱44.2⑲44.4⑳43.7㉑44.3㉒27.3		表紙糊離れ	①-⑫と⑬以降とは異筆、⑫と⑬で錯簡なし ⑩が⑪の文字を一部隠す
324		①26.5②28.9③29.0④37.3⑤28.4⑥50.8⑦52.5⑧52.3⑨52.5⑩-⑪52.3⑫43.2			①-⑤と⑥以降とは異筆、⑤と⑥で錯簡なし
325		①45.2②47.3③47.4④47.2⑤47.3⑥47.2⑦47.5⑧-⑨47.5⑩42.0⑪42.8⑫-⑬43.0⑭40.5⑮10.3		カビ痕	⑫以前と⑬以降は同筆、⑫と⑬で錯簡なし
326		①40.4②44.0③④44.5⑤-⑥44.3⑦40.5		巻頭一部欠失	
327		①43.7②47.3③-④47.3⑤51.7⑥51.3⑦⑧51.5⑨51.0⑩4.2			⑬と⑭は同筆
328		①43.0②-⑦44.9⑧-⑨47.7⑩20.45⑪21.9.2			
329		①40.8②44.4③44.0④44.4⑤44.2⑥44.3⑦-⑧44.2⑨44.3⑩28.6			
330		①40.3②44.0③④44.2⑤-⑥44.0⑦45.2⑧-⑨45.4⑩15.6			
331		①44.6②49.9③50.2④50.1⑤44.5⑥-⑦44.6⑧6.5			⑧に斜めの切断痕あり
332	天養二年七月廿三日三木郡常隆寺書畢/結縁助成僧 賢光	①54.0②56.0③56.2④55.6⑤56.5⑥45.8⑦46.2⑧⑨46.0⑩46.7⑪-⑫46.5⑬46.2⑭45.8⑮46.3⑯⑰45.8⑱2.8			⑤と⑥の紙継に文字のる、⑮と⑯も同様 天高・地高は⑤以前と⑥以降で異なる(界高は同じ) ⑰は奥書のみ 当初より複数規格で一筆か
333		①53.3②③④-⑤55.7⑥38.2			
334		①52.8②55.5③-④55.7⑤47.5		表紙糊離れ	
335	応永七年庚辰七月七日 構了 覚舜	①28.1②43.2③42.7④43.3 ⑤43.2⑥40.7			
336	応永七庚辰年六月二日 覚舜	①37.5②41.1③41.2④⑤41.5⑥-⑦41.0⑧40.8⑨37.2⑩31.8⑪19.5⑫24.5			⑬と⑭で錯簡なし
337		①47.5②48.5③52.6④44.5⑤44.3⑥-⑦44.8⑧19.8			
338	弘化丁未初四 八月上旬 義清 書干 朽木醫王/閑茅舎/為 蓮堂和尚(※裏表紙裏)	①33.3②③42.2 ④42.2⑤26.1			
339		①52.0②55.5③-④55.3-55.7⑤42.4			

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
340		①33.0②42.6/③6.6④41.1⑤41.4⑥⑦41.6⑧39.6⑨26.4			②と③、⑩と⑪で錯簡なし
341		①2.1②4.7③9.9④5.1⑤7.3⑥15.4⑦47.3⑧1.6⑨46.2⑩47.1⑪47.5⑫⑬47.2⑭47.5⑮1.6⑯45.3⑰47.3⑱1.2⑲45.5⑳47.5㉑1.7㉒45.0㉓㉔47.4㉕47.2㉖47.4/㉗故世尊無10.6/㉘故世尊若1.8㉙亦不3.8/㉚云何10.1		表紙糊離れ	①-⑦寸断されているが一筆、錯簡なし。⑧と⑨は同筆、⑩と⑪は同筆、⑫と⑬は異筆、⑭-⑳で錯簡なし、㉑と㉒との縦目に㉓の裁断された文字痕があり
342		①41.5②49.5③50.0④17.7⑤34.3⑥⑦50.2⑧⑨47.2⑩6.7⑪44.2⑫1行1.7⑬⑭47.2⑮1行2.3			
343		①44.7②46.6H19.1-19.9③46.6H20.0④47.28H19.8⑤⑥47.8H19.9⑦47.2⑧⑨⑩48.0⑪47.0⑫48.0⑬47.0⑭47.7⑮47.2⑯47.8⑰28.5		巻頭一部欠失	①と②は同筆だが界高異なる、②の界高2度変化
344		①45.4②47.7③47.5④1.3⑤45.3⑥⑦47.4⑧⑨47.7⑩11.5			④が短いのは改装時に横幅調整のために行間を詰めたためか 紙片(反転文字)の付着あり 朱字あり
345		①44.2/②31.6③38.8④38.9⑤39.4⑥⑦39.5⑧⑨38.0⑩⑪38.6⑫37.5⑬33.6⑭38.8⑮37.7⑯38.8⑰30.4⑱37.5⑲38.3⑳19.5		虫損 ②一部欠失	③と④の縦目の行間詰まる
346		①42.5②45.0③46.2④47.1⑤47.7⑥47.2⑦⑧47.7⑨⑩47.9⑪46.2			
347		①44.0/②46.2③46.0④⑤46.3⑥⑦⑧46.4⑨46.7⑩⑪46.2⑫32.3			①と②は異筆、錯簡なし
348		①41.5②2.4③22.3④22.8/⑤4行6.9⑥4行7.1⑦9行16.4⑧22.0⑨13.5⑩31.8⑪46.2⑫46.5⑬46.7⑭⑮46.2⑯47.0⑰46.3⑱19.8			④と⑤で錯簡なし、料紙の規格は同じだが現状の紙色異なる 朱字で欠行、欠字の行間書入あり
349		①42.4/②3.8③46.6④46.4⑤46.6⑥⑦46.5⑧⑨46.7⑩6.6			①は太字、①と②での錯簡なし
350		①33.9②42.8③20.0/④46.6⑤47.7⑥46.3⑦46.8⑧⑨47.0⑩⑪46.6⑫47.3⑬33.3			③と④は同筆だが現状の紙色異なる
351		①44.9②47.8③48.0④47.8⑤47.8⑥⑦48.0⑧48.0⑨46.8⑩46.6⑪47.1			
352		①47.8②50.0③④50.1⑤⑥50.2⑦47.6⑧⑨50.0⑩49.2⑪48.1⑫38.2		虫損	
353		①46.8②③50.0④⑤49.6⑥49.4⑦49.4⑧19.0		虫損	
354		①39.8②51.5③④51.8/⑤⑥49.4⑦39.2			
355		①43.5②50.1③④50.3⑤⑥1.0(1行)⑦48.1⑧⑨50.2⑩48.3⑪49.3⑫49.5⑬49.3⑭48.5/⑮⑯47.5⑰46.6⑱40.9			⑤-⑦は一筆
356		①45.6②49.2③49.0④49.3⑤⑥49.5/⑦47.5⑧⑨47.7⑩⑪48.0/⑫47.4⑬47.8⑭14.4			
357		①47.0②48.4③④49.5⑤49.5⑥⑦⑧49.6⑨⑩49.4/⑪⑫47.2⑬⑭47.5⑮47.3⑯47.7⑰47.2⑱40.7			
358		①47.0②49.0③49.5④49.6⑤50.0⑥⑦49.4⑧49.7⑨⑩50.1⑪⑫49.5/⑬⑭⑮48.6⑯⑰48.3⑱12.3		虫損	
359		①47.0②49.3③49.5④⑤49.1⑥47.9⑦⑧⑨48.0⑩47.8⑪35.1			
360		①46.3②48.6③48.0④⑤48.8⑥⑦48.0⑧48.4⑨48.9⑩⑪48.5⑫⑬48.8⑭48.0⑮47.2⑯47.6⑰47.4⑱20.0		表紙糊離れ	
361		①51.0②54.0③54.4④⑤54.7⑥⑦54.8⑧⑨54.2⑩54.5⑪54.2⑫40.1			
362		①51.0②③54.7④55.0⑤⑥54.8⑦⑧54.5⑨54.5⑩24.1			
363		①51.1②54.6③④54.8⑤⑥54.6⑦⑧54.4⑨54.0⑩54.2⑪54.0⑫⑬54.5⑭46.5			
364		①50.9②③54.4④⑤54.3⑥50.9			
365		①51.7②54.0③54.2④⑤54.2⑥54.5⑦54.2⑧⑨54.5⑩⑪54.0⑫53.1		虫損	
366		①48.9②③54.2④54.3⑤54.0⑥⑦54.2⑧⑨54.2⑩14.0			
367		①50.8②54.0③54.3④54.4⑤⑥54.2⑦⑧54.4⑨⑩54.3⑪54.2⑫54.0⑬19.9			
368		①50.5②54.0③54.3④54.0⑤54.3⑥54.5⑦54.2⑧54.5⑨54.1⑩54.8⑪54.5⑫⑬54.3⑭54.1⑮1行1.7			
369		①52.0②56.2③④56.6⑤56.5⑥⑦56.9⑧56.7⑨⑩56.6⑪⑫38.5			
370		①53.0②56.5③④56.8⑤⑥56.3⑦⑧56.7⑨⑩56.3⑪58.2			巻第361-370はセット

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
371		①41.0②43.8③⑤43.6⑥⑨43.8⑩⑫43.4⑬⑭44.3⑮44.1⑯43.9⑰⑱44.2⑲33.2			
372		①42.0②44.0③43.9④43.7⑤⑧43.7⑨43.9⑩43.6⑪43.4⑫43.8⑬43.4⑭⑰43.7⑱43.2	一交了	巻頭一部欠失	
373	天保十四季 癸卯六月 永野弘孝謹書写之	①33.2②③42.4 ③④41.4④27.0			首題・中題・尾題に「結」と記載あり
374		①44.0②③45.2④⑦44.9⑧⑩43.5⑪42.5			
375	天保第十五龍次甲辰年五月/永野弘孝謹書写之	①33.6②41.8③④40.5 ③④13④41.0④18.2			首題に「結」と記載あり
376		①42.1②④44.4⑤44.7⑥⑩44.5⑪⑫44.7⑬42.5	一交了	汚れ	
377		①33.5②44.5③44.8④44.5⑤44.7⑥44.4⑦⑩44.3⑪44.5⑫⑬44.2⑭44.0⑮44.3⑯44.5⑰44.2⑱26.7		汚れ	
378		①43.5②45.1③45.5④45.1⑤45.2⑥⑨45.1⑩⑪44.5⑫⑰45.1⑱37.9		巻頭一部欠失 汚れ	
379		①42.5②45.8③45.8④46.2⑤⑩46.0⑰5.7	一交了	汚れ	
380		①43.0②③44.8④44.8⑤⑩45.0⑱43.2	一交了		
381		①51.0②54.6③55.0④54.6⑤⑧55.0⑨55.3⑩54.7⑪55.0⑫54.8⑬55.1⑭55.0⑮52.5⑯19.3		汚れ	⑮と⑯は同筆か、継目で界高ずれ
382		①43.5②53.5③48.5④3.6⑤29.5⑥22.5⑦⑧53.5⑨7.0⑩13.8⑪30.0⑫53.4⑬39.5⑭12.9⑮53.3⑯53.0⑰53.5⑱26.4⑲26.2⑳53.1㉑53.3㉒51.1㉓51.5㉔29.0		表紙糊離れ	
383		①49.3②51.2③51.1④51.3⑤⑧51.4⑨51.1⑩46.5⑪51.7⑫⑰51.3⑱51.0⑲9.6		裏表紙糊離れ	
384		①453②472③47.5④47.1⑤⑩47.3⑱7.6			
385		①43.5②45.6③45.7④⑤45.8⑥⑩45.6⑱35.6		表紙糊離れ	
386		①51.2②54.0③⑤54.5⑥⑦54.7⑧⑩54.2⑫⑬54.6⑱49.7			⑭の巻末に擦り消しの痕跡か
387		①45.0②49.2③48.8④48.6⑤48.9⑥48.5⑦49.2⑧48.8⑨49.2⑩48.9⑪49.0⑫48.8⑬49.0⑭48.8⑮⑰49.0⑱46.1			
388		①44.0/②3.6/③42.3④⑥44.8⑦45.3⑧44.6⑨45.0⑩44.8⑪46.3⑫46.4⑬46.2⑭45.9/⑮2.1/⑯44.7⑰46.2⑱45.8⑲46.0⑳46.3㉑44.7			②前後で錯簡なし
389	応永二年乙亥閏七月八日 覚舜	①35.0②42.3③④42.6⑤42.3⑥42.6⑦⑨42.5⑩⑬42.6⑭⑮42.8⑯⑰42.7⑱44.2⑲42.4⑳42.6㉑42.1㉒42.5㉓20.3㉔20.0㉕6.6			
390		①50.0②52.1③53.3④53.7⑤53.9⑥⑧53.8⑨⑩54.2⑪52.6⑫54.0⑬⑰54.2⑱53.6⑲47.8⑳22.2		汚れ	
391		①46.6②51.8③⑤51.6⑥51.0⑦51.3⑧⑩50.8⑬⑰51.1⑱49.0⑲15.0			
392		①45.9②④50.2⑤49.5⑥50.1⑦49.8⑧48.5⑨48.0⑩49.6⑪⑬50.0⑱49.8⑲49.5⑳49.7㉑35.8		汚れ 書き込み	行間を詰めるところあり
393		①47.0②51.0③51.6④51.0⑤⑩51.2⑫⑬47.2⑰45.0⑱47.2⑲26.0			⑭までと⑮以降は同筆、錯簡なし
394		①46.0②49.2③49.5④⑤49.3⑥49.9⑦49.6⑧⑩50.2⑱49.9⑲30.5			
395		①50.8②53.6③53.7④53.5⑤54.0⑥53.5⑦53.8⑧⑩53.6⑱53.8⑲32.1			⑫と⑬は同筆、錯簡なし
396		①44.5②51.2③50.3④⑥49.7⑦⑧49.2⑨⑩50.2⑪45.6⑫⑰45.3⑱45.5⑲⑳45.6㉑43.6/㉒23.5			㉑と㉒で錯簡なし
397		①45.8②50.0③50.8④50.1⑤51.0⑥51.2⑦⑩51.2⑫51.5⑬⑰51.2⑱48.3⑲13.0			
398		①49.7②53.2③53.0④54.1⑤53.6⑥⑩54.0⑱46.6		シミ	
399		①43.5②47.6③47.8④47.5⑤⑦47.8⑧48.0⑨47.5⑩⑬53.5⑱53.5⑲53.6⑲53.1⑲5.7		シミ	巻末に「口巻第三百口口」(反転 天地逆)あり
400		①42.8②⑤44.8⑥⑩44.8⑱44.5⑲47.2⑲42.3		シミ	
401		①1.0②42.0③④41.6/⑤27.4⑥⑧19.3⑦⑨45.4⑩43.8⑪46.7⑫⑰45.4⑱18.2			④と⑤で錯簡なし 木箱(巻第401-第450)蓋のつまみ欠失
402		①36.7②38.7③38.9④23.3⑤38.5⑥⑩39.0/⑪44.8⑫⑬44.5⑱⑲45.0⑲40.4⑲20.9			⑧以前と⑨以降は異筆

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
403		①37.5②39.2③④39.3⑤⑥39.5⑦39.0⑧⑨39.5⑩37.5⑪-⑬39.2⑭18.1/ ⑮-⑰44.6⑱⑲43.2⑳43.2			⑮以前と⑰以降は異筆、途中別筆あり ⑰以降はやや後か墨界なしの箇所あり
404		①15.6②39.0③17.8④39.3⑤23.6⑥-⑧47.4⑨46.8⑩⑪47.5⑫-⑬47.3⑭ ⑮47.2⑯3.1			④以前と⑤以降は異筆
405		①44.2②46.7③46.4④-⑥46.7⑦44.5⑧⑨⑩44.2⑪⑫46.7⑬41.5		カビ痕 汚れ	
406		①45.8②42.8③42.8④-⑥42.9⑦3.6			
407		①43.5②45.1③45.5④-⑥45.3⑦44.4⑧44.2⑨⑩43.5⑪⑫15.9			
408		①22.0②19.8③44.3④⑤45.3⑥⑦45.4⑧⑨44.2⑩⑪44.0⑫11.2			文字の書き足し多し
409		①40.6②44.0③43.8④⑤44.2⑥⑦43.7⑧44.0⑨43.8⑩⑪44.2⑫43.3⑬45.6 ⑭45.2⑮44.8⑯44.5⑰45.6⑱45.4⑲8.2		糊離れ	
410		①43.0②46.6③46.8④46.2⑤45.8⑥-⑧46.5⑨-⑪47.0⑫46.6⑬-⑭47.0⑯ 9.6			
411		①51.0②53.0③53.2④53.0⑤-⑦53.2⑧52.3⑨49.1		シミ	
412		①43.6②46.7③47.1④47.3⑤-⑦47.2⑧45.3⑨11.8			継目でない④の紙背にマークの花押あり
413		①43.8②47.7③47.9④-⑥47.5⑦⑧47.8⑨47.1⑩46.5⑪6.4			継目でない紙背にマークあり
414		①42.8②45.1③46.6④46.2⑤47.0⑥47.6⑦-⑩47.3⑪12.1			継目でない紙背にマークあり
415		①44.8②47.8③48.5④⑤48.0⑥1.7⑦46.0⑧48.0⑨48.2⑩47.5⑪-⑬48.0⑭ 48.3⑮48.5⑯47.8			継目でない紙背にマークあり
416		①51.1②55.2③56.2④-⑥56.4⑦54.0⑧53.8⑨53.8⑩53.9⑪54.0⑫54.3⑬ 53.2⑭52.2⑮13.2		カビ痕	⑮と⑯で錯簡なし、⑮の行間に1行補写
417	嘉永元戊申年九月吉日/甞玉院二而/ 教純写之	②41.7			
418		①49.0②52.2③52.3④52.7⑤51.6⑥54.0⑦⑧53.3⑨55.3⑩55.5⑪47.3⑫ 51.3⑬55.5⑭54.4⑮55.4⑯50.0			
419		①49.3②52.6③53.0④53.2⑤-⑦52.7⑧52.4⑨52.8⑩⑪53.0⑫44.0		カビ痕	
420		①52.5②53.5③54.8④54.6⑤⑥54.3⑦52.8⑧53.7⑨54.0⑩⑪53.8⑫⑬ 53.5⑭53.3⑮50.0		虫損	
421		①48.6②55.2③55.0④55.2⑤54.5⑥55.5⑦55.4⑧54.5⑨56.2⑩55.2⑪55.5 ⑫54.8⑬55.7⑭54.8⑮55.0⑯54.5⑰19.5⑱13.3⑲15.8		⑤と⑥糊離れ	⑰までと⑱は異筆、錯簡なし
422		①51.0②55.0③54.6④54.1⑤-⑦55.0⑧-⑩55.5⑪⑫51.0⑬51.3⑭50.8⑮ 50.7⑯38.7		巻頭一部欠失と汚れ	継目でない⑪の紙背にマークの判あり
423		①49.6②55.4③54.7④⑤55.0⑥-⑧54.5⑨43.7		巻頭一部欠失と汚れ ①と②糊離れ	継目でない⑮の紙背にマークの判あり
424		①49.1②52.6③52.8④53.0⑤53.7⑥53.0⑦⑧53.3⑨-⑪52.5⑫53.0⑬52.9 ⑭53.5⑮47.1		虫損	継目でない紙背にマークの判あり
425		①46.4②50.7③-⑤51.0⑥⑦51.0⑧-⑩51.5⑪50.8⑫51.5⑬50.8⑭45.6			継目でない紙背にマークの判あり
426		①48.5②52.8③53.0④53.1⑤-⑦53.0⑧42.5			巻末に巻第426の一節(尾題より2行目「離非…待以」を墨書する、本文に錯簡なし
427		①50.5②54.8③54.9④54.5⑤⑥54.6⑦54.3⑧54.5⑨54.0⑩54.9⑪54.2⑫ 54.4⑬⑭54.0⑮54.4⑯50.0			継目でない⑮の紙背にマークの判あり
428		①45.3②53.3③54.2④53.5⑤54.0⑥54.4⑦54.5⑧2.0(1行)⑨54.1⑩53.8⑪ 54.2⑫53.6⑬53.2⑭53.4⑮53.6⑯53.0⑰7.0			①と②で錯簡なし ⑧前後は同筆 継目でない紙背にマークの判あり
429		①48.5②52.0③④52.6⑤52.8⑥-⑧52.6⑨52.3⑩-⑫52.5⑬51.0⑭35.9			⑮と⑯の界高など異なるが同筆、錯簡なし
430		①48.2②52.5③54.4④54.6⑤-⑦54.3⑧53.8⑨54.8⑩54.5⑪54.7⑫54.4/ ⑬52.3⑭52.2⑮27.2			⑮と⑯の継目に余白の行があるが錯簡なし、同筆 継目でない紙背にマークの判あり
431		①44.8②-④47.1⑥45.2⑦-⑨45.3⑩45.9⑪45.4⑫45.8⑬45.5⑭45.6⑮⑯ 45.1⑰45.5⑱45.8⑲45.2⑳4.3			⑤⑥と⑨⑩は同筆
432		①46.0②47.0③47.2④-⑥47.1⑦⑧47.2⑨25.2			⑮と⑯は異筆だが錯簡なし
433		①44.1②-④47.2⑤-⑦47.0⑧5.5			
434		①40.3②42.2③-⑥42.5⑦42.2⑧42.6⑨42.5⑩42.8⑪⑫-⑭42.5⑮36.0			

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
435		①42.0②43.8③44.1④44.3⑤44.2⑥44.6⑦44.1⑧44.3⑨44.1⑩-⑪44.2⑫13.1		虫損	
436		①43.5②-⑤45.6⑥⑦47.5⑧47.2⑨-⑫47.5⑬47.2⑭47.5⑮41.1		虫損	⑤と⑥は同筆
437		①43.3②-⑤45.5⑥43.5⑦44.3⑧44.1⑨-⑫44.0⑬43.5⑭43.5⑮43.2⑯44.1⑰29.2			⑤と⑥は同筆
438		①41.5②45.3③45.0④45.2⑤45.5⑥42.8⑦43.0⑧-⑫43.8⑬-⑯43.2⑰6.2		虫損 カビ痕 巻頭一部欠失	⑤と⑥は同筆
439		①42.1②-④45.5⑤-⑧45.7⑨45.5⑩-⑫45.4⑬⑭45.0⑮⑯45.4⑰⑱45.2⑲45.1⑳19.5		虫損	
440		①48.2②-⑩51.0⑪49.0⑫9.2/⑬39.0⑭44.5⑮45.0⑯45.1⑰45.6⑱38.8		巻頭一部欠失	⑪と⑫と⑬は同筆、錯簡なし
441		①45.5②49.1③④49.5⑤47.1⑥47.5⑦47.8⑧47.6⑨47.5⑩⑪47.8⑫-⑮47.5⑯47.3⑰35.1			
442		①47.5②48.8③48.6④49.1⑤47.7⑥47.4⑦48.1⑧48.0⑨47.8⑩47.6⑪47.3⑫47.9⑬47.4⑭47.7⑮47.3⑯47.5⑰22.2		虫損	
443		①47.2②49.1③49.3④⑤49.5⑥49.3⑦⑧49.5⑨49.4⑩49.2⑪-⑮49.0⑰27.8		巻頭一部欠失	
444		①17.8②25.9/③44.0④48.1⑤48.5⑥⑦49.0⑧49.1⑨-⑮49.1⑯47.0⑰28.8		虫損	②と③で錯簡なし
445		①47.0②-④49.0⑤⑥48.9⑦⑧49.1⑨⑩48.8⑪49.2⑫49.0⑬49.2⑭49.3⑮41.8/⑯21.1			⑮と⑯で錯簡なし
446		①43.5②47.0③47.2④47.5⑤-⑦49.3⑧-⑩49.1⑪-⑮49.4⑰47.0⑱35.6		シミ	④と⑤は同筆
447		①45.8②47.6③47.9④47.6⑤35.4⑥13.0⑦48.5⑧48.3⑨48.5⑩-⑮48.0⑰47.8⑱34.8			
448		①45.4②48.7③④49.0⑤48.6⑥⑦49.1⑧-⑫49.0⑬48.8⑭-⑯49.0⑰47.0⑱29.0		虫損	
449		①47.1②49.2③49.0④⑤49.5⑥⑦49.1⑧49.4⑨49.2⑩49.5⑪49.0⑫49.2⑬-⑯49.0⑰49.3⑱34.0			
450		①44.0②-⑥47.6⑦41.6⑧7.4⑨⑩49.9⑪49.8⑫48.5⑬49.8/⑭47.0⑮2.5⑯49.0⑰46.7⑱20.0		⑭と⑮糊離れ	⑥と⑦は同筆
451		①50.2②52.9③④52.7⑤⑥53.0⑦52.7⑧-⑫53.0⑬-⑮52.7⑯54.0⑰13.8		表紙・裏表紙糊離れ	
452		①50.5②-⑮53.2⑰22.5			
453		①47.5②-⑤53.2⑥49.0⑦3.6(2行)⑧-⑫53.2⑬52.2⑭16.7			⑭と⑮は同筆 紙背にマークの判(口に大)あり
454		①53.6②54.4③-⑮54.2/⑰⑱42.2⑲19.5			⑥の途中で手が変わる
455		①50.5②53.3③-⑮53.5⑰53.2⑱41.5⑲54.8⑳51.0			⑬と⑭は同筆だが 紙色 規格異なる。
456		①43.0②46.0③44.8④-⑮45.8⑰45.4		一部欠失 シミ	
457		①45.8②46.9③-⑮47.3⑰47.3		一部欠失 シミ	
458		①52.0②54.8③-⑮55.0⑰54.7⑱54.8⑲55.6⑳54.3⑳①②54.7⑳54.0⑳51.8⑳47.8		シミ	⑩と⑪の継目で2字欠落、異筆カ ⑬と⑭は同筆、巻第455と同一人カ
459		①44.8②-⑮45.4⑰28.5		一部欠失	
460		①44.2②46.9③-⑮47.3⑰44.2⑱45.3⑲⑳45.2⑳31.5			⑩と⑪、⑰と⑱の継目に文字のる
461		①48.5②-④52.4⑤48.2⑥53.2⑦53.7⑧52.8⑨52.1⑩-⑮53.8⑰52.4⑱25.2			
462		①48.5②-⑤52.5⑥-⑮52.7⑰39.5			
463		①49.4②53.4③1.6(1行)④50.5⑤53.2⑥52.8⑦47.5⑧49.0⑨-⑮48.8⑰46.7			
464		①47.7②52.9③53.1④52.8⑤52.7/⑥-⑮48.6⑱48.3⑲⑳48.5⑳46.3⑰8.9			
465		①48.6②52.2③52.5④52.1⑤52.5⑥-⑮52.3⑱52.7⑲52.5/⑳①②54.5⑳54.9⑱54.5⑲54.9⑰51.3⑱12.4			⑧、⑩の紙背にマークの判(口に大)あり
466		①51.4②55.3③55.5/④52.6⑤52.8⑥52.3⑦52.7⑧52.4⑨52.8⑩52.9⑪-⑮52.4⑱53.1/⑰44.0/⑲53.8/⑳54.4			③の紙背にマークの判(口に大)あり



巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
467		①50.5②52.8③52.5④52.7⑤52.5/⑥54.9⑦⑧55.1⑨55.6⑩55.0⑪55.6⑫⑬55.7⑭54.8⑮30.5			⑦の紙背にマークの判(口に大)あり
468		①51.5②53.2③④53.0⑤53.2⑥⑦⑧53.0⑨⑩⑪53.0⑫⑬53.4⑭54.0⑮⑯34.8			紙背にマークの判(口に大)あり
469		①50.2②54.0③54.2④⑤54.2⑥⑦54.2⑧⑨54.4⑩⑪⑫54.0⑬⑭⑮53.5⑯⑰40.2			書き込み多数
470		①51.0②54.4③54.9④55.8⑤56.0⑥52.0⑦⑧⑨55.5⑩⑪55.8⑫⑬⑭⑮55.6⑯⑰32.5			紙背にマークの判(口に大)あり
471		①43.2②③46.4④47.1⑤⑥⑦47.4⑧⑨⑩47.1⑪⑫46.8⑬⑭6.3		虫損 シミ	
472		①51.5②53.0③④⑤55.3⑥⑦⑧55.6⑨⑩⑪14.3			
473		①51.0②53.2③④⑤55.6⑥55.2⑦⑧⑨55.5⑩⑪⑫27.1			
474	天養二年歳次乙丑二月三日三木郡常隆寺書畢/勸進聖人住僧暹寂 結縁衆僧賢光/過去悲母所生三人尊靈往生極楽/頓證菩提耳 仍結縁助成意趣以如斯	①51.0②55.8③55.5④⑤⑥56.2⑦54.6		①一部欠失 擦れ	
475	天養二年歳次乙丑二月中旬常隆寺書写畢/勸進聖人高男寺住僧暹寂助成衆女高橋氏/為現世安穩後生菩提助成耳 筆師僧賢光	①51.4②55.3③55.1④55.6⑤⑥⑦55.9⑧⑨55.7⑩⑪⑫55.4⑬⑭39.6			
476		①43.4②47.5③④20.8⑤47.0⑥47.1⑦⑧46.9⑨⑩47.1⑪⑫47.8⑬⑭45.0⑮⑯46.7⑰⑱44.8⑲⑳44.9㉑㉒42.5㉓48.2㉔48.4㉕48.2㉖47.2			
477	如意寺	①51.5②45.8③45.2/④47.4(19.6)⑤54.4(20.4)⑥56.7(20.6)⑦54.3⑧49.3(以下20.5)⑨49.5⑩49.7⑪49.6⑫49.7⑬49.5⑭49.4⑮49.0⑯49.0⑰30.6			①と②、③と④、④と⑤とで界高異なる ⑭途中から筆かわり太文字に ⑮と⑰は料紙・界線の仕様は同じだが異筆、⑰は「如意寺」と同筆、墨色同じ
478		①52.0②③④55.6⑤⑥⑦55.8⑧⑨28.9			
479	天養二年歳次乙丑三月十三日播万国三木郡常隆寺書畢/勸進聖人住僧暹寂結縁共僧蓮西/為智惠辯才利根利現世安穩後生菩提書耳	①50.2②③53.8④54.2⑤53.6⑥53.2⑦53.5⑧53.6⑨53.1⑩53.7⑪⑫40.5⑬⑭9.2⑮53.5⑯53.6⑰53.8⑱⑲53.6⑳26.1		虫損 一部欠失 擦れ	⑩-⑬は同筆
480	天養二年歳次乙丑三月十日幡万国三木郡常隆寺/書写已畢 勸進聖人高男寺住僧/聖寂結縁助成衆船木成重女文屋氏/数多所生現世安穩後生善處故/殊致精誠之誠助成之状 執筆賢光	①50.0(20.3,2行目20.1)②53.8③53.5④⑤53.7⑥⑦53.9⑧53.0⑨⑩53.5⑪53.9⑫53.2⑬53.1⑭53.5⑮53.6⑯53.8⑰⑱51.6		虫損 一部欠失 擦れ	①の首題は「大般若…四」まで書かれた紙片を貼り「八十」は補写する、紙片にもとの界線、補簡 錯簡なし
481		①50.0②54.2③54.5④⑤54.5⑥⑦54.5⑧⑨54.5⑩⑪54.0⑫⑬11.5		汚れ	③ ⑥ ⑩の紙背にマークの判(口に大)あり
482		①2.3/②49.9③54.0④54.4⑤54.8⑥55.2⑦⑧⑨55.0⑩⑪⑫54.8⑬⑭50.0⑮⑯4.1⑰⑱55.0⑲31.5		汚れ	⑩の紙背にマークの判(口に大)あり
483		①51.0②53.9③53.3④54.1⑤⑥⑦54.3⑧54.0⑨⑩⑪54.6⑫⑬⑭54.2⑮⑯15.5		汚れ	②の紙背にマークの判(口に大)あり
484		①47.0②52.2③52.4④⑤52.7⑥52.0⑦52.5⑧52.0⑨52.8⑩52.4⑪51.3⑫51.5/⑬54.3/⑭52.8⑮25.0⑯53.0⑰44.2		汚れ	紙背にマークの判(口に大)あり
485		①51.3②52.8③④55.1⑤54.3⑥52.1⑦⑧⑨52.7⑩⑪⑫54.5⑬⑭54.0⑮54.5⑯53.7⑰54.7⑱52.6⑲53.3⑳52.2㉑36.6		汚れ	紙背にマークの判(口に大)あり
486		①52.0②53.8③54.4④54.1⑤⑥53.2⑦53.0⑧53.3⑨53.0⑩⑪52.5⑫⑬51.1⑭⑮54.0⑯53.8⑰53.0⑱54.6⑲43.8			紙背にマークの判(口に大)あり
487		①51.5②③53.6④53.8⑤54.1⑥52.6⑦52.5⑧53.0⑨52.3⑩⑪52.8⑫51.0⑬52.4⑭⑮53.5⑯45.1			⑦の紙背にマークの判(口に大)あり
488		①51.0②③④53.0⑤53.8⑥⑦53.2⑧⑨53.5⑩⑪⑫53.2⑬⑭53.0⑮52.7⑯49.2⑰52.8⑱38.5			①の紙背にマークの判(口に大)あり
489		①29.7/②21.7③52.9④51.8⑤51.1⑥51.0⑦52.8⑧52.5⑨⑩⑪54.3⑫50.5⑬⑭54.0⑮51.5⑯54.3⑰54.0⑱15.0		一部欠失	⑰の紙背にマークの判(口に大)あり
490		①51.8②③④53.9⑤53.5⑥50.0⑦53.9⑧⑨50.0⑩⑪50.0⑫⑬2.4⑭50.0⑮⑯54.0⑰54.3⑱52.0			⑰の紙背にマークの判(口に大)あり

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
491		①49.5②52.7③53.0④-⑥52.7⑦-⑩53.0⑪⑫53.3⑬⑭53.0⑮49.7⑯53.0⑰54.2⑱19.2		虫損	
492	弘化丁未初四稔菊月下旬拜書	②42.5			
493		①45.8②-④48.6⑤-⑩48.9⑪49.2⑫48.8⑬49.2⑭48.8⑮46.2⑯40.2			
494		①45.5②-④49.8⑤-⑦49.0⑧48.5⑨48.8⑩-⑫49.0⑬48.8⑭48.5⑮48.6⑯48.0⑰7.2			
495		①43.0②-⑨46.5⑩-⑰47.8⑱31.2			⑯と⑰の継目で⑯に1行分程度の余白あり、錯簡なし
496		①42.5②46.0③46.2④46.4⑤46.2⑥-⑧46.5⑨48.9⑩46.8⑪-⑰46.5⑱44.5⑲42.5⑳9.8			
497		①43.2②46.0③-⑨46.5⑩46.7⑪46.2⑫⑬46.7⑭-⑰46.5⑱42.8⑲17.6/⑳3.4/㉑27.3			⑲と⑳の継目で⑲に1行分程度の余白あり、錯簡なし
498		①44.2②-⑱47.8⑳46.0㉑44.9㉒40.6			
499		①44.5②-⑱47.9⑳46.9㉑46.5㉒46.7㉓46.3㉔46.0㉕16.2		裏表紙糊離れ	⑱と㉒の継目で1行分程度の余白あり、錯簡なし
500		①44.4②47.9③48.2④-⑱48.0㉒45.6㉓7.1		裏表紙糊離れ	
501		①41.2②42.0③17.1④34.7⑤34.5⑥37.8⑦37.5/⑧55.5⑨55.7⑩⑪55.4⑫55.6⑬⑭55.4⑮⑯55.5⑰40.9			
502		①50.0②-④53.1⑤54.0⑥⑦54.5⑧54.3⑨54.0⑩-⑬55.0⑭54.5⑮⑯54.6⑰50.7		表紙糊離れ	
503		①43.8②9.2/③53.6④55.4⑤55.6⑥55.8⑦55.4⑧55.7⑨55.3⑩-⑬55.5⑭55.4			
504		①52.8②55.0③-⑧55.6⑨-⑱55.3⑲⑳55.2㉑55.5㉒54.7㉓55.0㉔14.6		巻頭一部欠失	
505		①42.1②35.0/③34.2④39.5⑤38.6⑥38.4⑦39.5⑧38.2⑨36.5/⑩5.3⑪49.5⑫49.0⑬48.2⑭49.6⑮48.9⑯⑰49.0⑱49.1⑲48.9⑳48.7㉑47.5		虫損	墨界なしの箇所あり
506		①10.8/②24.6③37.8④39.2⑤38.7⑥39.2⑦39.5⑧⑨39.3⑩25.0/⑪23.8⑫45.9⑬46.3⑭⑮45.6⑯46.2⑰-⑱46.0⑲45.2⑳46.0㉑45.7㉒40.5		虫損	⑩以前と⑪以降は異筆、錯簡なし、墨界なしの箇所あり 改装時に行間を多く詰める
507		①31.2/②21.8③④55.0⑤-⑧55.3⑨54.6⑩-⑰55.5⑱52.8		虫損	墨界なしの箇所あり
508		①46.0②47.7③47.8④49.5⑤49.3⑥⑦49.6⑧50.1⑨⑩49.8⑪⑫49.2⑬-⑰49.0⑱48.8⑲39.5⑳14.6			
509		①52.0②54.8③55.0④55.2⑤-⑦55.4⑧55.2⑨55.5⑩⑪55.5⑫16.7⑬55.2⑭55.6⑮-⑰55.6⑱50.4/㉑14.0		虫損 ⑨汚れ	もとの㉑は巻第122に継がれる 墨界なしの箇所あり ⑫の前後で錯簡なし
510		①46.0/②49.6③50.0④-⑨50.2⑩49.8⑪50.0⑫⑬49.8⑭49.7⑮50.0⑯49.6⑰39.5⑱23.5			
511		①28.3②46.8③47.2④47.0⑤47.2⑥47.5⑦-⑨47.1⑩47.3⑪47.6⑫⑬47.5⑭47.0⑮-⑰47.5⑱21.1		表紙糊離れ 汚れ	
512	兵庫熊内 小兵衛	②41.9			
513		①46.0②48.0/③48.2④47.8⑤48.2⑥48.0⑦48.3⑧-⑱48.2⑲-⑳48.0㉑3.5		①②一部欠失 汚れ	①②と③以降とは異筆
514		①44.5②-⑤47.8⑥48.2⑦-⑱48.0⑲45.5⑳37.8		汚れ	
515		①45.8②-⑧47.6⑨48.0⑩48.2⑪-⑰48.0⑱40.2/⑲5.7⑳47.9㉑48.6㉒47.2㉓48.2㉔36.0			⑱の途中で手が変わる ⑲から界線なし
516		①42.0②-④47.6⑤⑥47.9⑦36.0/⑧46.2⑨28.1⑩16.5⑪1.8⑫⑬48.1⑭42.1/⑮21.8⑯29.8⑰⑱42.5⑲42.3⑳40.3㉑42.3㉒42.5㉓17.2			⑧-⑱は一筆、錯簡なし ⑦と⑧、⑱と⑲で錯簡なし
517	沙弥(阿妙)前書写也	①/②46.2/③46.4④46.4⑤47.2⑥-⑱47.4⑲47.1⑳47.6㉑⑳47.7㉒⑳47.5㉓46.8㉔11.8		巻首一部欠失	①と③以降は同筆で阿妙カ ②(最終行は余白)は③の右端の1行(文字の一部が見える)を糊代として継がれる ⑲と㉑は同筆だが界線ずれる
518		①45.5②47.6③48.2④47.8⑤48.2⑥47.8⑦⑧48.0⑨-⑱48.2⑲-⑳48.0⑳34.8⑰⑱45.4⑲2.9		一部欠失	⑮と⑯は同筆だが界線ずれる
519		①53.5②-④55.5⑤⑥55.8⑦55.6⑧55.8⑨-⑱55.6⑲55.9⑳54.8㉑56.0⑳-⑲55.5㉒4.4		汚れ	
520		①50.0②55.1③-⑦55.4⑧-⑱55.3⑲⑳55.0㉑55.5㉒55.2㉓27.3		巻頭一部欠失	

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
521		①51.8②47.5③④53.3⑤-⑨53.0⑩52.4⑪53.0⑫52.6⑬52.3⑭52.4⑮1.2⑯48.3⑰1.7⑱52.3⑲53.3⑳42.5		糊離れ	⑧と⑨、⑫と⑬で糊はなれ
522		①51.5②53.7③45.0④-⑦53.0⑧52.8⑨52.6⑩52.9⑪53.2⑫52.6⑬52.9⑭53.0⑮52.5⑯⑰52.8⑱26.2			①②と③以降は同筆か、錯簡なし
523		①10.5②29.6③15.8④55.2⑤55.4⑥-⑨55.2/⑩⑪46.1⑫43.3⑬2.9⑭-⑯46.3⑰⑱46.5⑲43.0⑳46.0㉑24.6		一部欠失 糊離れ	⑨と⑩は同筆 ②と③は糊離れ
524		①28.0②39.8/③35.2④1.6⑤18.8⑥30.1/⑦52.1⑧-⑩51.9⑪51.8⑫51.5⑬-⑭51.8⑮52.3⑯52.5⑰46.5⑱30.2			
525		①51.7②55.3③55.5④⑤55.7⑥54.6⑦55.0/⑧45.4⑨46.0⑩45.7⑪46.5⑫46.6⑬⑭46.2⑮46.4⑯46.0⑰46.5⑱46.3⑲46.0⑳19.3			
526		①51.3②55.2③41.6④52.4⑤52.4⑥52.4⑦51.5⑧51.8⑨53.3⑩⑪52.0⑫⑬52.2⑭52.3⑮-⑰52.5⑱39.0			
527		①38.2②51.4③51.0④51.5⑤1.5⑥50.2⑦51.4⑧51.5⑨51.9⑩52.2⑪52.3⑫51.6⑬52.1⑭51.9⑮-⑰52.5⑱10.8			
528		①47.5②51.8③④47.2⑤47.5⑥46.8⑦47.9⑧⑨47.3⑩47.0⑪47.8⑫47.5⑬45.1⑭31.0⑮⑯47.6⑰⑱43.5⑲51.6			
529		①52.3/②34.3③46.6④46.9⑤47.5⑥46.3⑦46.7⑧46.6⑨46.8⑩47.3⑪47.0⑫46.6⑬計測困難⑭47.0⑮47.2⑯計測困難⑰47.5⑱38.5			
530		①43.5/②54.8③④55.0/⑤46.1⑥⑦46.5⑧44.8⑨11.0⑩⑪47.3⑫⑬47.7⑭47.5⑮47.3⑯47.7⑰47.3⑱46.8			⑧と⑨と⑩は同筆、墨界なしの箇所あり
531		①51.3②53.4③④53.0⑤⑥53.6⑦53.4⑧53.0⑨53.2⑩53.3⑪⑫53.5⑬⑭53.2⑮42.5		虫損 巻頭一部欠失	⑬と⑭は同筆
532		①51.1②53.7③1.5④51.5⑤53.6⑥45.0⑦45.5⑧-⑩45.3⑪45.4⑫45.6⑬45.0⑭45.3⑮45.3⑯45.5⑰45.1⑱45.3⑲45.5⑳15.2			
533		①44.5②54.1③54.1④54.2⑤54.2⑥54.0⑦-⑨54.6⑩54.5⑪54.2⑫45.5⑬45.8⑭45.6⑮45.1⑯45.5⑰45.6		一部欠失	首題の1行は江戸時代の補写で裏打紙に写す ①と⑫は同筆、錯簡なし
534		①41.5②45.2③45.0④⑤45.7⑥44.8⑦45.7⑧45.5⑨45.8⑩⑪45.6⑫⑬47.5⑭47.3⑮46.7⑯47.3⑰46.7⑱47.3⑲30.7			
535		①47.3②③51.3④50.5⑤50.4⑥51.0⑦44.6⑧-⑩44.5⑪⑫⑬44.7⑭44.4⑮44.0⑯44.6⑰⑱44.5⑲12.4		シミ	⑥と⑦で錯簡なし、同筆
536		①41.5②45.4③45.2④45.5⑤45.3⑥-⑨45.5⑩⑪45.7⑫⑬45.5⑭44.7⑮44.6⑯44.2/⑰39.3⑱22.1		虫損 巻頭擦れ	⑬から紙色が変わる 墨界なしの箇所あり
537		①50.2②53.6③④53.9⑤54.2⑥54.4⑦54.5⑧-⑩54.3⑪53.3⑫⑬54.2⑭54.0⑮53.2⑯53.8⑱49.1		シミ	
538		①33.5②15.9/③26.5④49.3⑤45.0⑥2.1⑦42.3⑧45.3⑨-⑰45.3			墨界なしの箇所あり
539		①43.4②47.2③④47.1⑤⑥47.4⑦⑧47.8⑨46.8⑩46.5/⑪⑫49.8⑬50.2⑭49.8⑮49.0⑯49.0⑰49.2⑱35.0			
540		①45.4②47.4③47.8④⑤47.4⑥⑦47.0⑧47.2/⑨45.0⑩43.6⑪45.3⑫44.7⑬45.0⑭44.8⑮-⑰45.0⑱44.6			③④で墨の濃淡、線の太さの変化で×、*の形をデザインする
541		①46.1②49.1③-⑥49.3⑦-⑩49.0⑪48.8⑫54.7⑬⑭54.8⑮54.5⑯⑰44.0⑱19.8		一部欠失	
542		①51.7②55.8③55.5④53.8⑤53.5⑥55.8⑦55.5⑧50.8⑨-⑰50.8⑱⑲50.5⑳50.6㉑20.0/㉒20.3			⑱のみ異筆
543		①52.0②55.7③④55.9⑤-⑧55.6⑨⑩55.5⑪55.0⑫43.9			
544		①53.1②55.3③55.7④-⑥55.6⑦55.8⑧46.7⑨47.0⑩-⑰46.6⑱46.5⑲5.4			
545		①21.4/②33.0③④55.5⑤55.7⑥55.5⑦55.2⑧-⑩55.7⑪⑫55.3⑬⑭55.3⑰9.5			墨界なしの箇所あり
546		①48.2②53.1③53.5④⑤53.0⑥-⑩53.5⑪46.6⑫⑬46.4⑭46.2⑮⑯46.7⑰⑱46.7⑲39.5		カビ痕 巻頭一部欠失 シミ	
547	弘化第二暦乙巳仲夏之候/永野姓弘孝 欽書	②42.0			
548		①46.3②50.8③51.0④50.5⑤50.7⑥50.0⑦50.4⑧-⑩50.8⑪⑫50.5⑬8.1			

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
549		①48.0②49.5③48.0④48.7⑤48.0⑥47.5⑦20.9⑧⑨53.5⑩48.4⑪48.6⑫47.8⑬⑭47.5⑮47.8⑯48.0⑰46.7		一部欠失	⑥と⑦は異筆
550		①43.7②46.8③④7.0⑤47.2⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			
551		①45.3②47.8③④48.0⑤22.0		表紙糊離れ	
552		①46.1②④47.8⑤46.0⑥1.6⑦⑧⑨48.0⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		表紙・裏表紙糊離れ	
553		①42.8②46.2③45.8④47.8⑤48.0⑥48.2⑦⑧⑨48.0⑩48.5⑪47.5⑫48.2⑬48.0⑭47.8⑮⑯48.0⑰46.0		表紙糊離れ	
554		②42.0			
555		①45.0②④48.2⑤46.0⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			
556		①41.8②④45.0⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		巻頭一部欠失	
557		①41.5②④45.0⑤21.0			一部欠損部分の補写あり
558		①46.0②④49.0⑤44.3			
559		①42.0②④46.0⑤45.5⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			
560		①45.0②④48.2⑤48.5⑥48.2⑦46.5⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		虫損	
561		①45.6②50.2③④45.0⑤49.5⑥47.5⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		虫損	同じ料紙の中で手がかわる
562		①46.1②④50.0⑤51.3⑥50.0⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			
563		①47.1②51.2③51.5④51.2⑤51.6⑥⑦51.8⑧51.6⑨49.1⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			
564		①49.8②③51.9④51.7⑤51.7⑥51.3⑦51.6⑧⑨51.8⑩51.6⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			
565		①48.0②④49.6⑤49.4⑥49.7⑦⑧⑨50.0⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		虫損	料紙の継目で手がかわる
566		①408②③46.5④⑤47.0⑥46.7⑦47.0⑧⑨46.5⑩46.7⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		一部欠失	一部の漢字の字音を記す
567		①46.0②③49.2④49.8⑤⑥49.5⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			
568		①46.2②49.9③④50.2⑤49.0⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			⑯の途中から行間が狭くなり、墨界がなくなる
569		①47.4②48.0③51.5④51.2⑤51.0⑥51.0⑦50.8⑧50.5⑨51.5⑩⑪51.0⑫49.1⑬49.2⑭49.5⑮49.4⑯49.0⑰49.2⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			⑧までと⑨以降は異筆、⑰までと⑱以降は異筆、錯簡なし ⑱以降行間が狭くなる
570		①46.0②48.4③④48.9⑤48.5⑥48.8⑦49.5⑧⑨49.9⑩49.7⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		一部欠失	①-⑦と⑧-⑬と⑭-⑱とは異筆 ⑲と⑳で錯簡なし
571	天保十四年卯/三月/施主/垂水村/弥三郎	①43.8②④47.5⑤⑥47.8⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		表紙・裏表紙糊離れ	
572		①44.2②④47.7⑤47.9⑥47.7⑦48.0⑧47.8⑨47.6⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			
573		①43.0②46.7③46.9④⑤47.0⑥47.2⑦⑧⑨47.0⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			
574	干時弘化二乙巳年八月八日/書写之/如意寺浄泉院/清範/弘化二乙巳年/八月/清範書写ス之	③40.8④41.9			尾題に「終」と記載あり
575	天保十有四年癸卯冬十有二月吉祥日/永野三二太良弘孝/謹書写之	②42.3			首題・問題に「珍」と記載あり
576		①45.6②③47.0④⑤47.5⑥47.3⑦47.1⑧⑨47.3⑩47.1⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		虫損 シミ 一部欠失	
577		①44.1②47.5③④47.9⑤⑥47.6⑦⑧⑨47.8⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		シミ	
578		①54.0②31.3③16.7④⑤47.8⑥48.0⑦46.6⑧45.7⑨2.1⑩48.4⑪48.2⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		巻頭虫損 一部欠失	①-④と⑤以降は一筆
579		①43.6②46.8③46.5④⑤47.5⑥⑦44.5⑧⑨45.1⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		虫損 シミ	

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	状態	特記事項等
580		①48.6③52.2③-⑧53.0⑨53.3⑩51.2⑪53.7⑫⑬52.5⑭51.0⑮52.5⑯43.5			⑩までと⑪以降は紙色が変わるが同筆 紙背にマークの判(口に大)あり
581	弘化三丙午年菊月下旬於清養山法泉寺謹書之/性善房/為蓮堂和尚佛果僧位	②42.3			
582		①43.6②47.5③-⑪47.8⑫⑬48.0⑭47.6			尾題2ヶ所にあり
583	一交了/久寿二年正月廿五日和泉州大島郡和田郷下条/釈尊寺住僧嚴尊/依聖人勸進以写般若徳願共諸衆生往生安(楽)国	①50.5②54.8③55.6④55.6⑤56.0⑥-⑩55.9⑪54.7⑫54.2⑬52.1⑭2.1⑮54.2⑯48.3	一交了	①一部欠失	
584		①44.5②48.5③48.3④⑤48.8⑥48.6⑦-⑨48.9⑩49.2⑪52.5⑫48.1⑬3.0⑭-⑯51.5⑰48.9⑱30.2			⑩と⑪、⑯と⑰で錯簡なし 墨界なしの箇所あり
585	維時天保十五祀甲辰九月永野弘孝欽書	②41.6			
586		①47.6②-⑦49.8⑧50.0⑨49.9⑩49.7⑪49.3⑫49.1⑬48.3⑭44.2			墨界なしの箇所あり
587		①47.8②49.3③49.6④49.3⑤49.8⑥-⑨49.6⑩-⑮48.5⑯39.4			墨界なしの箇所あり
588		①43.5②-④49.5⑤⑥49.3⑦49.7⑧49.2⑨49.6⑩48.8⑪⑫48.3⑬40.0⑭45.2⑮33.7			墨界なしの箇所あり
589		①46.5②48.1③48.7④48.1⑤48.8⑥48.6⑦48.5⑧48.7⑨48.2⑩48.5⑪51.5⑫⑬51.6⑭51.8⑮48.6⑯19.6			墨界なしの箇所あり
590		①47.1②39.7③8.3④⑤48.6⑥-⑩48.8⑪52.0⑫⑬51.5⑭52.0⑮39.4⑯34.8			墨界なしの箇所あり
591		①54.0②-⑤55.6⑥55.0⑦55.3⑧-⑫55.5⑬54.7⑭2.0		シミ 料紙劣化	紙継の紙背にマークの判あり
592		①53.6②-④55.5⑤24.0/⑥27.0⑦55.0⑧54.2⑨⑩55.2⑪54.5⑫54.8⑬52.2⑭2.1⑮54.9⑯51.0⑰3.6⑱46.5⑲24.9		シミ	⑥と⑦とは同筆 ⑩と⑰で錯簡なし 紙継の紙背にマークの判あり
593		①51.3②-④53.5⑤-⑦53.8⑧55.0⑨-⑫53.5⑬53.8⑭55.0⑮54.8⑯25.8		シミ	⑨と⑩で錯簡なし 紙継の紙背にマークの花押あり
594		①50.3②-⑥53.2⑦54.8⑧55.0⑨-⑫54.8⑬37.0⑭53.2⑮53.3		シミ	前半と後半で手が変わる 紙継の紙背にマークあり
595		①50.8②52.8③-⑤55.5⑥53.2⑦54.4⑧54.9⑨⑩55.1⑪18.2⑫42.2⑬⑭55.0⑮54.3⑯54.5⑰51.0		シミ	⑭と⑮は異筆 紙継の紙背にマークあり
596		①50.6②52.8③-⑨53.2⑩55.5⑪55.2⑫54.3⑬⑭⑮54.5		シミ	紙継の紙背にマークあり
597		①5.6/②50.0③-⑦55.5⑧53.0⑨-⑫53.5⑬35.5⑭22.5/⑮53.8⑯31.0			紙継で墨界のずれあり ⑬と⑭、⑰と⑱は異筆で錯簡なし ⑫から⑭までの紙継の紙背にマークの判あり
598		①53.0②-⑦55.5⑧⑨55.3⑩55.8⑪⑫55.1⑬⑭55.7⑮56.0⑯54.8⑰22.5			
599	弘化四丁未年霜月十一日畢/為権大僧都法印永範大和尚菩提/如意寺浄泉院内・実静房書之 印印(朱文方印)	②41.7		①と②紙継糊離れ	
600		①54.5②55.9③56.3④56.0⑤52.8⑥53.8⑦53.5⑧53.0⑨53.4⑩-⑫53.2⑬54.5⑭25.8		表紙・裏表紙糊離れ	

(3) 報告事項 ②

神戸市文化財保存活用地域計画協議会（案）

1. 委員		
菱田 哲郎	京都府立大学文学部教授（神戸市文化財保護審議会副会長・歴史）	学識経験者
海原 靖子	公益財団法人 白鶴美術館学芸員	文化財所有者
井上 舞	神戸大学大学院人文学研究科	地域研究組織
池口 和雄	一般財団法人 神戸シティ・プロパティ・リサーチ 企画部企画課長	歴史的建造物保存活用
横山 直己	神戸諏訪山ふれあいのまちづくり協議会 委員長	神戸歴史遺産管理者
松下 麻理	一般財団法人 神戸観光局 フィルムオフィス担当部長	観光・ユニークベニュー
木崎 尚文	株式会社 JTB神戸支店長	観光事業者
慈 憲一	灘百選の会事務局長	地域資源の活用

2. オブザーバー

兵庫県 兵庫県教育委員会文化財課

3. 事務局 神戸市文化スポーツ局文化財課



### (3) 報告事項

#### ③神戸歴史遺産の認定と助成

##### 【認定】

令和4年度認定

	件名	所在地	申請者の氏名	種別
1	旧住吉村吉田家関係資料	神戸市東灘区 住吉宮町	一般財団法人住吉学園	有形文化財 (歴史資料)
2	関西ユダヤ教団・シナゴーク	神戸市中央区 北野町	関西ユダヤ教団	有形文化財 (建造物)
3	神戸布引おんたき茶屋	神戸市中央区 葺合町	神戸布引おんたき茶屋保存会	有形文化財 (建造物)
4	金星観測記念碑(金星測量標柱)	神戸市中央区 諏訪山町	神戸諏訪山ふれあいのまちづくり協議会	有形文化財 (建造物)
5	旧雲禅寺伝来品及び豊浦地区 数珠繰り資料	神戸市北区長 尾町	豊浦自治会	有形文化財 (歴史資料)

令和5年度認定

申請募集期間 令和5年9月1日(金)～令和5年10月31日(火)

##### 【助成】

令和4年度助成実績

神戸歴史遺産の名称	総事業費	助成金交付希望額	助成金交付額
若王子神社の防災設備工事	40,000,000	688,000	688,000
六甲ケーブル六甲山上駅	2,585,000	2,585,000	2,048,000
「武井家文書」及び「武井家伝来絵 画資料(粉本)」	880,000	880,000	880,000
宮野尾神社の獅子舞	515,000	515,000	515,000
塩野家住宅修理	11,450,000	11,450,000	765,000
性海寺本堂修理	5,641,350	1,881,000	1,881,000
春日神社舞台修理	654,500	218,000	218,000
有馬芸妓文化公演会	3,435,000	3,435,000	3,435,000
合計	65,160,850	21,652,000	10,430,000

令和5年度 助成申請一覧（ふるさと納税登録事業）

	神戸歴史遺産の名称	事業内容	総事業費	助成金交付希望額
1	徳光院及びその周辺	危険木伐採	1,093,785	593,000
2	シュウエケ邸	修理	23,112,870	8,000,000
3	性海寺八幡神社本殿	防災設備設置	572,000	191,000
4	龍華院庫裏	屋根修理	6,226,000	3,250,000
5	六甲ケーブル六甲山上駅	修理	253,000	253,000
6	湯女を起源とする有馬芸妓文化	PR 事業	2,797,000	2,797,000
7	「武井家文書」および「武井家伝来 絵画資料（粉本）」	デジタル写真撮影	880,000	880,000
8	神戸布引おんたき茶屋	PR 事業・地盤調査	2,915,000	2,915,000
9	関西ユダヤ教団・シナゴーク	PR 事業	974,000	974,000
	総 合 計		38,823,655	19,853,000

## (3) 報告事項

## ④国登録有形文化財（建造物）の滅失

国登録有形文化財「大土神社摂社住吉社本殿」「同 摂社天満社本殿」について、現状変更の結果、新調工事が行われ、滅失に至った。文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 59 条第 3 項の規定に基づき、登録が抹消される見込みである。

## 1. 文化財の概要

	大土神社摂社住吉社本殿	大土神社摂社天満社本殿
所在地	神戸市灘区鶴甲 3 丁目 159 他	
所有者	宗教法人 大土神社	
員数	1 棟	1 棟
構造、形式及び大きさ	木造平屋建、鉄板葺、建築面積 0.49 m <sup>2</sup>	木造平屋建、鉄板葺、建築面積 0.49 m <sup>2</sup>
時代	明治前期	明治前期

## 2. 経緯 令和 3 年度、現状変更届による修理に際して、新調工事が行われ、既存摂社が解体された。

令和 3 年 4 月 6 日	大土神社→市文化財課：現状変更届提出。 工事期間：令和 3 年 5 月 15 日～令和 3 年 7 月 15 日 新材率：住吉社（63%）、天満社（65%）
令和 3 年 5 月 24 日	文化庁→市文化財課： <u>登録維持に向けて、部材の 5 割再用品を目指すよう指導。</u>
令和 3 年 5 月 28 日	大土神社→市文化財課：京都で解体修理を行うが、傷みが多く、5 割を確保できるか不透明。登録維持が困難な場合、新調すると回答。
令和 3 年 5 月 31 日	文化庁→市文化財課： <u>できるだけ部材を再用品とするよう指導。完了届をみて、登録維持の判断を行う。慎重に工事を進めるよう、所有者への指導を求める。</u>
令和 3 年 10 月 7 日	市文化財課→大土神社： <u>進捗照会。解体の結果、50%以上の旧材再用品は不可能と判断。大土神社と工務店で協議の上、新築を決定、10 月末に完成予定。</u>
令和 4 年 2 月 8 日	市文化財巡視員→文化財課：新調された摂社の現地確認報告。 市文化財課→大土神社：現状変更完了報告を再三督促するが、長らく適切な書類が提出されず。
令和 4 年 6 月 23 日	大土神社→市文化財課：現状変更完了届及び完了報告遅延理由書が提出。 市文化財課→県文化財課： <u>新調工事による滅失を報告。</u>
令和 4 年 6 月 24 日	市文化財課→大土神社：旧材の使用状況照会。予想以上に傷みが進み、やむなく再用品を諦めたと回答。
令和 4 年 6 月 27 日	市文化財課→文化庁： <u>状況報告と現状変更完了届の進達。</u>
令和 4 年 11 月 28 日	市文化財課が現地訪問。大土神社より説明を受ける。
令和 5 年 5 月 18 日	文化庁→市文化財課： <u>現状変更完了届受理通知。解体撤去を伴う完了報告のため、次回文化審議会にて抹消審議を諮ると伝達。</u>

### 3. 滅失に至った問題点

市文化財課、所有者、工務店の認識の甘さが重なり、結果として文化財の滅失を招いてしまった。

市文化財課
<ul style="list-style-type: none"><li>・現状変更届の提出段階で、文化庁、兵庫県と情報共有を密に行い、所有者、工務店に登録維持を前提とした現状変更を強く求めるべきであった。</li><li>・文化庁より、慎重な工事を進めるよう指導を求められながら、修理現場への立会を行わなかった。届出の工事期間を過ぎても、状況確認を怠った。</li><li>・新築工事の連絡に対して、所有者、工務店と現地協議を行わず、国・県への報告も怠った。</li><li>・文化財巡視員より新築報告を受けたにもかかわらず、現地確認を長らく行わなかった。</li></ul>
所有者（大土神社）
<ul style="list-style-type: none"><li>・文化財所有者として、文化財修理に適さない工務店を選定し、現状変更を進めた。</li><li>・市文化財課からの再三の求めに対して、現状変更完了届の提出が遅延し続けた。</li></ul>
工務店
<ul style="list-style-type: none"><li>・適切な文化財修理を行えない工務店が選定されていた。</li></ul>

### 4. 今後の対応

現状変更届による修理での新調工事、文化財の滅失はきわめて大きな問題であり、文化財を守る責任ある行動をとれていなかった。このようなことが二度と起こらないよう、下記の再発防止策を進めていく。

- ①文化財の保存・活用の不明点、不安を払拭するため、所有者へ年に一度、「登録文化財建造物の手引き」（文化庁発行）、「文化財所有者へのマニュアル」（市文化財課作成）を送付。所有者の果たすべき義務、文化財の保存・活用に必要な手続き、相談時の窓口である市文化財課を周知する。
- ②相談は上記「手引き」「マニュアル」をもとに説明し、対応記録を作成、課内で情報共有をはかる。内容に応じて現地協議を実施し、文化財的価値を維持する現状変更かを登録所見をもとに検討する。懸念がある場合は文化庁へ相談、指導を仰ぎ、文化財的価値を維持した現状変更を求める。
- ③工事では所有者と随時現地確認を実施し、進捗状況を確認する。
- ④市内の国登録有形文化財の状況について、文化庁、兵庫県へ随時報告し、情報共有をはかる。

国登録有形文化財は保存・活用の相談も多い。所有者に寄り添い、適切な保存・活用がはかられるよう、文化財行政として責務を果たしてまいりたい。

5. 写真



摂社住吉社本殿 (変更前)



(変更後)



摂社天満社本殿 (変更前)



(変更後)

【参考】市内の国登録有形文化財の抹消（国指定等への格上げを除く）

抹消告示	名称	抹消理由
平成 19 年 12 月 5 日	室谷家住宅（主屋、附属屋）	解体
平成 27 年 4 月 16 日	泉勇之介商店（事務所及び主屋、旧精米所、前蔵及び大蔵、瓶詰め場及び貯蔵庫）	解体
平成 28 年 9 月 14 日	川崎重工業神戸工場第一号ドック	埋立
令和 3 年 6 月 24 日	鈴木薄荷株式会社社屋	解体